

本資料について

- Solaisコンテナに関する構築・運用手順を紹介しています。導入・構築ガイド「Solarisコンテナを使ってみよう」を参照しながら、 本手順書を活用してください。
- 参考URL http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/technical/
- 本資料では、Solaris OS 環境をOracle VM Server for SPARC上に構築した場合の手順を記載しております。 そのため一部、Oracle VM Server for SPARCに依存した内容があります。例えば、ディスクやネットワークインターフェイス などがOracle VM Server for SPARC固有の値となっており、物理サーバ環境とは異なりますのでご了承ください。

使用条件

商標

- UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- SPARC Enterprise、SPARC64およびすべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使 用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

構築・運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	公開日	2011年10月
Oracle Solaris	コンテナを使ってみよう 項得・運用手順書 目次		
1章 基礎編			
1-1. Resour (1) (2) (3) F (4) F 【参考】 【参考】 【参考】 【参考】	ice Pool の設定 デフォルトスケジューラ の設定 Resource Pool サービスの起動 Resource Pool 構成の反映 一括定義方法 スケジューラ の初期化 その他の pooladm コマンド操作 その他の poolcfg コマンド操作例		
1-2. zone の (1) z (2) - (3) 第 (4) 第 (5) - (6) 第 【参考】 -)作成 cone の状態確認方法 マウント先の確認 新規 zone の構成 構成済み zone のインストール インストール済み zone の起動 切回起動時の zone のセットアップ その他の zonecfg 設定例		
1-3. Solaris (1) a (2) z	コンテナの基本操作 起動・停止・ログイン cone におけるプロセスの見え方		
2章 応用編			
2-1. Solaris (1) S (2) S	コンテナの検証環境利用 Solaris コンテナクローンの準備 Solaris コンテナクローン作成		
2-2. Solaris (1) \$ (2) \$	コンテナの災対環境利用 Solaris コンテナの移動 災対環境での Solaris コンテナ起動		
2-3. Solaris (1) ! (2) \$ (3) c (4) (コンテナ統合環境におけるリソース操作 ハース操作の事前準備と確認 シェア数の動的変更 :pu-cap の設定 CPU リソースの動的移動		
2-4. Solaris (1) + (2) / (3) ± (4) = (5) ± (6) / (7) 4	コンテナのパッチ適用 ナーバへのコンソール接続 パッチ適用前の準備 ロンテナ環境の並列パッチ適用 直用したパッチの削除 パッチ適用前の準備(従来の方法) 従来の方法でのパッチ適用		
FUjitsu			

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		公開日	2011年10月	
1章 基礎編	-			-	-
-1 IN/-77-1					
-1	の設定				
1) ス <u>ケジューラ0</u>	ユーノの設定 D確認	global01# ps -efc gre root 1 0 T	p /sbin/init S 59 10:02:0	7? 0	0:00 /sbin/init
globalC	01# ps -efc grep /sbin/init	root 905 903 T	\$ 49 10:05:1	7 pts/1 0:	00 grep /sbin/init
※ デフォ	ルトで動作しているinitプロセスのスケジューラが、TS(タイムシェフ	アリング)であることを確認します。			
globalC)1# dispadmin −d	global01# dispadmin - d			
※ OS起	動時のスケジューラ設定の確認コマンド。未設定時は確認できま	dispadmin: Default sche	duling class is r	iot set	
2) スケジューラの	変更				
globalC)1# priocntl -s -c FSS -i pid 1				
※ initプロ	コセスのスケジューラをFSSに変更します。				
globalC	01# priocntl -s -c FSS -i class TS				
* TS27	ラスで動作しているプロセスのスケジューラをFSSに変更します。				
globalC)1# dispadmin -d "FSS"				
※ 0Sの	デフォルトのスケジューラをFSS(フェアシェアスケジューラ)に変更	します。			
	7th = 21				
3) ×79<u>1</u>-70	雑誌 N1# psofo grop /ship/init	global01# ps -efc	grep /sbin/init		
grobard * ESSI-	が用いていた。 $g(cp / s) (f) (f)$	root 1 0	FSS 29 10:0	2:07 ?	0:00 / sbin/ init
global(-支史されたことで唯能します。 11# dispadmin -d	# dispadmin -d			
8100810 ** ESSI-	がほうちょう しょう での しょう ひょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう し	FSS (Fair Share)			
× 1001	・文文でもいここと理論しより。				

			4000	2011年10月
ソースノール・	サービスの起動			
リソースプーノ	ルの状態確認	global01# pc	oladm	
globalC	01# pooladm	pooladm: 7-	-ル状態ファイルをオ	ープンできませんでした
※ リソー	-スプールの初期状態を確認します。	「機能かどク	/ 1 / このりま せん	
リソースプーノ	ルサービスの状態確認			
globalC	01# svcs -a grep pools	global01# sv disabled	cs -a grep pools 10:02:14 svc:/syste	m/pools:default
※ リソー	-スプールサービスの状態を確認します。	disabled	0:02:20 svc:/system	/pools/dynamic:default
リソースプーノ	ルの起動			
global(01# svcadm enable svc:/system/pools:defa	ault		
※ リソー	-スプールサービスを起動します。			
リソースプーノ	ルサービスの壮能確認			
global	01# svcs -a grep pools	global01# sv	cs -a grep pools	m /noolo / dunamianda fault
* Jy-	-スプールサービスが起動していることを確認します.	disabled online	10:02:20 svc:/syste 10:07:13 svc:/system	m/pools/dynamic:default n/pools:default
global(ルの状態確認 01# pooladm	global01# po	oladm .	-<省略>-
grobalt		pool po	ol_default	
			oolean pool.active tru	e
			nt pool.importance	
		s	tring pool.comment set pset default	pool_default
		not n	et default	み存在すること
		pset ps	nt pset.sys_id -1	を確認します。
			oolean pset.default tr int pset.min 1	ue
		l	int pset.max 65536) ation
		l i	int pset.load 3	ation
		l	int pset.size 16	-<省略>
ソースプール 0 リソースプール global(の構成 ル 構成の保存 (メモリ上で動作するリソースプールの構成を 01# pooladm -s	とファイルに書き出します。)		
ソースプール (リソースプー) global(※ 最後L	の構成 ル <u>構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成</u> る 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの3	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出り		
ソースプール (リソースプー) global(※ 最後に また、	の構成 ル 構成の保存 (メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも	ます。 だきます。	
ソースブール 0 リソ <u>ースブー</u> 」 global(※最後に また、 リソ <u>ースブー</u> 」	の構成 ル <u>構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成す</u> 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル 構成ファイル内容の確認	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも	ます。 だきます。	
ソースブール (リソ <u>ースブー)</u> global(※ 最後に また、 リソ <u>ースブー)</u> global(の構成 ル <u>構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成す</u> 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの3 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル <u>構成ファイル内容の確認</u> 01# poolcfg -c info	とファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することもつ	ます。 የさます。	
ソースブール 0 リソ <u>ースブー</u> 」 global(※最後 また、 リソー <u>スブー</u> 」 global(※ pool _c	の構成 ル <u>構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成</u> を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル <u>構成ファイル内容の確認</u> 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することもT	ます。 ぐきます。	
ソースブール (リソースブー) global(※ 最後) global(※ pool(リソースブー)	の構成 ル 構成の保存 (メモリ上で動作するリソースプールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル 構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル 構成ファイルの編集 (/etc/pooladm.conf への書き込み	とファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも た。 シ)	ます。 だきます。	
ソースブール (リソ <u>ースブー)</u> global(※ 最後 また、 リソー <u>スブー)</u> global(※ pool(リソースブー) 1. デフォルト	の構成 ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.confへの書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset_pset_default	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T。 な)	ます。 ぐきます。	
ソースプール(リソ <u>ースプー)</u> global(※最後に また、 リソ <u>ースプー)</u> global(※ pool リソースプー) 1. デフォルト global(2 新知プロ	の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成す</u> 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul 1# wttryh (nset) の作成	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することもす す。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	ます。 ぐきます。	
ソースプール(リソースプー) global(※最後に また、 リソースプー) global(※ poole リソースプー」 1. デフォルト global(2. 新規プロ global(の構成 ル 構成の保存 (メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの考 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル 構成ファイルの編集 (/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default ロッサセット (pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset 1 (uint)	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも た。 シ) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset ma	ます。 ぐきます。	
yースブール(リソ <u>ースブー</u> 」 global(※ 最後 global(※ pool りソースブー」 1. デフォルト global(2. 新規ブロ global(3 新知ブー	の構成 ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの特 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集 (/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul ロロッサセット (pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成	とファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも た。 、 、 、 、 、 、 、 t (uint pset.min=8) [*] t pset.min=8 ; uint pset.ma	ます。 ぐきます。	
yースブール(リソ <u>ースブー</u>) global(※最後 また、 リソースブー) global(※ pool りソースブー) global(3. 新規ブロ global(の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成</u> を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 <u>ル構成ファイル内容の確認</u> 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み <u>のプロセッサセットの最低CPU数を変更</u> 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default 10:************************************	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも た。 シ) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma	ます。 できます。 	
yースプール(リソ <u>ースプー</u>) global(※最後 また、 リソースプー) global(※ pool global(2. 新規プロ global(3. 新規プー global(4. プロセッ ⁴	の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成</u> を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul: 1年ッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとプールの関連付け	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T。 な) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma	st. Cast.	
yースプール(リソースプー) global(※最後 また、 リソースプー) global(※ pool りソースプー) 1. デフォルト global(2. 新規プロ global(3. 新規プー global(4. プロセッ global(の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成</u> 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のブロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default 1セッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1 (f	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも F。 ゆ) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma pset pset_1)'	ます。 できます。 x=8) '	
yースプール(リソースプー) global(※最後に また、 リソースプー) global(※ poold リソースプー) global(2. 新規プロ global(3. 新規プロ global(4. プロセッゴ global(5. プールの	の構成 ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの考 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default ロッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1 (p マンテジューラ設定	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも た。 \$ \$ t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma pset pset_1)'	ます。 できます。 x=8) '	
yースプール(リソースプー) global(※最後に また、 リソースプー) global(※ poold リソースプー) global(2. 新規プロ global(3. 新規プロ global(5. ブールの global(の構成 ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの考 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集 (/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default 1セッサセット (pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1 (p ウスケジューラ設定 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (str	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T. *) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma pset pset_1)' ing pool.scheduler="FSS")'	\$; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5; 5;	
yースプール(yyースプー) global(※最後に また、 yyースプー) global(※ poold リソースプー) global(3. 新規プー global(3. 新規プー global(5. ブールの global(の構成 ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの考 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul: 1セッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool)の作成 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (pr ステジューラ設定 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (str	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T。 (uint pset.min=8)' t pset.min=8: uint pset.ma pset pset_1)' ing pool.scheduler="FSS")'	\$\$. ₹₹\$\$\$. ₹₹\$\$\$. x=8)'	
yースプール(リソ <u>ースプー</u> 」 global(※最後 また、 リソースプー」 global(※ poolc () ソノースプー」 global(3. 新規プロ global(4. プロセン「 global(5. プールの global(の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースプールの構成</u> を 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースプールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul: 1セッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル(pool)の作成 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1' サセットとプールの関連付け 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (str	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T. (uint pset.min=8)' t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma pset pset_1)' ing pool. scheduler="FSS")'	\$\$. (*****). 	
yースプール(リソ <u>ースプー</u> 」 global(※最後 また、 リソ <u>ースプー</u> 」 global(※ pool global(2. 新規プロ global(3. 新規プロ global(4. プロセン1 global(5. <u>プールの</u> global(の構成 <u>ル構成の保存(メモリ上で動作するリソースブールの構成</u> す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの 既にファイルがある場合は上書きします。ファイル名を指定 ル構成ファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル構成ファイルの編集(/etc/pooladm.conf への書き込み のプロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_defaul: 1社ッサセット(pset)の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル(pool)の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1 (p シスケジューラ設定 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (str	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T. A t (uint pset.min=8)' t pset.min=8: uint pset.ma pset pset_1)' ing pool.scheduler="FSS")'	\$\$. [*****.	
yースプール(リソースブー) global(※最後 また、 リソースブー) global(※ pool global(2. 新規プロ global(3. 新規プロ global(5. ブールの global(の構成 ル 構成の保存 (メモリ上で動作するリソースブールの構成す 01# pooladm -s にファイル名を指定しない場合は、現在のリソースブールの 既にファイル内容の確認 01# poolcfg -c info default と pset_default のみの構成であることを確認します ル 構成ファイルの編集 (/etc/pooladm.conf への書き込み のブロセッサセットの最低CPU数を変更 01# poolcfg -c 'modify pset pset_default 1セッサセット (pset) の作成 01# poolcfg -c 'create pset pset_1 (uint -ル (pool) の作成 01# poolcfg -c 'create pool pool_1' サセットとブールの関連付け 01# poolcfg -c 'associate pool pool_1 (po 2スケジューラ設定 01# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (str	をファイルに書き出します。) 状態を /etc/pooladm.conf に書き出し することで別ファイルに保存することも T。 キ シ) t (uint pset.min=8)' t pset.min=8; uint pset.ma pset pset_1)' ing pool.scheduler="FSS")'	ます。 【きます。 X=8) '	

構築·運用手順	[書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		公開日	2011年10月	
(4) リソースプ	プール 構					
1. 構成 glo	<u>成ファイル</u> oba 01	内容の確認 # poolcfg -c info				
*	作成し	- pool_1と pset_1 が追加されていることを確認します。				
2. 構成	<u>成の実行</u>	#				
gic *	のD2101	# pooladm −C でリソースプール構成が実行されます。実行時にエラーが出る場合は、構	成ファイルを見直してください。			
3. 実行	行中のリ	ノースプール構成の確認 alo	hal01# poolstat -r all			
glo	oba101	# poolstat -r all	pool type rid rs	set set 1	min max s 8 8 8	ize used load 8 0.00 0.00
			pool_default pset -1	pset_default	8 66K	8 0.00 0.01
【参考】·	一括定律	方法				
リソース 1. <u>任意</u>	スプール 意のファ·	構成ファイルの編集は一括定義も可能です。 /ルに定義情報を記述				
glo	oba I 01	# vi /tmp/poolcfg.txt				
	己載例)					
cre	eate s	ystem default set aset default (wint post min=8)				
cre	eate p	set pset_1 (uint pset.min=8; uint pset.max=8)				
ass	sociat	e pool_l(pool_1(pset_pset_1)				
moc	odity p	ool pool_1(string pool.scheduler="FSS")				
2. 77	アァイルの	<u>売み込み</u>				
glo	oba I 01	# poolcfg -f /tmp/poolcfg.txt				
【参考】スケ 1)デフォ川 glc glc 2)スケジ= glc	<mark>ケジュー</mark> ルトスケ: obal01 obal01 ^{ジューラの} obal01 obal01	ラの初期化 ジューラを TS に設定する方法 # dispadmin -d TS # init 6 設定ファイルを削除する方法 # rm /etc/dispadmin.conf # init 6				
【参考】子の	D #h m	Aladm コマンド提件				
注意事項:	Solaris	コンテナ稼働中には行わないで下さい。				
1)現 <u>在動</u>	助作してい	る リソースプール 状態を破棄 (初期状態の設定に戻る)				
glo	oba101	# pooladm −x				
2)現 <u>在動</u>	助作してい	る リソースプール を停止 (リソースブール サービスが停止される)				
glo ##	oba101	# svcadm disable svc:/system/pools:default				
glo	obal 01	# pooladm -d				
*	Solaris	10 6/06 以前のバージョンの場合は、こちらのコマンドを使用する必要だ	があります。			

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	公開日	2011年10月	
【参考】その他の			-	
1)設定の削除				
1. <u>例:プール</u> global0	· <u>pool1を削除</u> 1# poolefg -c 'destroy pool pool 1'			
grobaro				
2. 例:プロセ	<u>ッサセット pset_1 を削除</u>			
global0	1# poolcfg -c 'destroy pset pset_1'			
2) 設定した名前	の変更			
1. 例:プール	· pool_1 を pool_2 に変更			
global0	1# poolcfg -c 'rename pool pool_1 to pool_2'			
2. 例:プロセ	ッサセット pset 1 を pset 2 に変更			
global0	1# poolcfg -c 'rename pset pset_1 to pset_2'			
3)設定したノロ/ 1. <u>例:プー</u> ル	ヽティの変更 • pool_1 のコメントを変更			
global0	1# poolcfg -c 'modify pool pool_1 (string pool.comment="TEST_POOL")'			
つ 例・プロム				
	1# poolefg -c 'modify pset pset 1 (uint pset max=1)'			
0				
4)設定したプロ/ 1 例・プール	バティの削除 			
global0	1# poolcfg -c 'modify pool pool 1 (~ string pool.scheduler)'			
5	······································			

·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実	施日	2011年10.	月	
7ana の作成			-		-	-	
20110 V71FAG		_					
)zone の状態確認	認方法	9	lobal01# zo	neadm lis	ST-VC TUS DATH		
globalu	川井 Zoneadm St -VC の状態 - 覧をまこします(初期状態では alabal song のみがまこされます))		0 global	runi	ning /	na	tive shared
× 2011e 0	の仏態一見で衣小します。(初州仏態では、global zone のみか衣小されます。)	L					
		global01# df - ファイルシス・	-h テム サイ	ズ値田等	さみ 使田可能	突景	マウント牛
giobaiu		/dev/dsk/c0d	d0s0 7.90	4.9G	2.9G 64%	6 /	· / / / //
× 2011e 1	用のティスクがマウンド消みになっています。	/dev/dsk/c0d	d1s0 7.80	- 7.9M	·<1自略>- 7.7G	1% /z	one_tar_list
)新規 zone の構 1)zone 構成の	成開始	/dev/dsk/c00	d3s0 5.90 d2s0 5.90	6.0M	5.8G	1% /e	<pre>kport/zones_clo xport/zones</pre>
globalO	11# zonecfg -z <mark>zone01</mark>	/dev/dsk/c0d	d4s0 5.90	4.0G	1.8G	69% /e	xport/zones_pa
※ 実行後	後ブロンプトが変わり、構成コマンドが実行可能となります。						
2) zone の作成			継承	ディレク	トリの設定を	を行わな	い場合
zonecfg	;:zoneO1> create		4GBJ	したの領	頃域が必要 ²	です。 こした ॠ≅	
※ 初期話	。 役定値を読み込みます。zone 作成時に必ず最初に実行する必要があります。		4GBL	人上の前	貝以かめるこ	_とを確認	&しま 9 。
3) zone 設定のA	建築						
zonecfg	rizone01> info						
× zone	の設定状態を確認します。 export コマンドでも確認できます。						
4) 1/7 0=	·····································						
4) zone (TXU)	xæ rizoneΩ1> set zonenath= /export/zones/zoneΩ1		ディスク構成	を zone	専用にする	ためマウン	小ポイント
Zonoorg							
			ここでけ の	\+ 7 #+ #+			
× zone :	La 971 - 8. da			\ 士仁 표기 비송	L. 70NA ΩE	ヨ前記前	
* zone の自動i 5) zone の自動i zonecfg * true あ	起動設定 (:zone01〉 set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同	同時起動されます	をしない設定 	こにします	に zone の目 F。	目動起動	
 x zone of bit zone of bit zone of g x true a 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false ちるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1	司時起動されます	ここでは、00 をしない設定	こにします	に zone の目 F。	1 勁起勁	
 20ne o <u>o <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u> <u>o</u></u>	起動設定 g: zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 g: zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。	司時起動されます	ここでは、い をしない設定 		に zone の目 F。	1 動起動	
 5) zone o <u>o <u>o b</u>ai</u> zonecfg % true <i>s</i> 6) Resource Poor zonecfg % zone 7) Zriju-ja 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false ちるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 の設定	司時起動されます	ここでは、00 をしない設定 		ເ ເ ເ	1 動起動	
 ※ zone の自動 Zonecfg Zonecfg ※ true あ	起動設定 g:zone01> set autoboot=false ちるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 g:zone01> set scheduling-class="FSS"	司時起動されます			ις zone ΦΕ	101起91	
 ※ zone の自動i zonecfg ※ true あ 6) Resource Poi zonecfg ※ zone 7) スケジューラの zonecfg ※ zone 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false bolvit false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時にに ol の関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 g:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。	司時起動されます			ເວັດຍອ	107起97	
 * zone の自動i 5) zone の自動i Zonecfg * true a 6) Resource Poor Zonecfg * zone 7) スケジューラの Zonecfg * zone 8) インターフェー 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false bolvid false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 g:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 - 2の共有設定	司時起動されます	ここでは、00 をしない設定 		ι zone Φ F	107起97	
 ※ zone の自動i zonecfg ※ true あ 6) Resource Poor zonecfg ※ zone 7) スケジューラの zonecfg ※ zone 8) インターフェー zonecfg 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false bolvk false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 olの関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 g:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 -スの共有設定 g:zone01> set ip-type=shared	司時起動されます			ις zone ΦΕ	1107起100	
 ※ zone の自動i 20necfg ※ true ま 6) Resource Poor Zonecfg ※ zone 7) スケジューラの Zonecfg ※ zone 8) インターフェー Zonecfg 9) ネットワークイ 	起動設定 (:zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Poolを指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Poolのスケジューラを指定します。 -スの共有設定 (:zone01> set ip-type=shared ************************************	司時起動されます			ι zone Φ Γ	1 57 起 57	
 ※ zone of 自動i zone of 自動i zone of g x true a 6) Resource Poi zone of g x zone 7) スケジューラの zone of g ※ zone 8) インターフェー zone of g 9) ネットワークイ 	起動設定 g:zone01> set autoboot=false bolvk false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 olの関連付け設定 g:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 g:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 	司時起動されます			ις zone ΦΕ		
* zone β 5) zone β a b a zonecfg * true δ 6) Resource Point zonecfg * zone 7) $\lambda \gamma \gamma \gamma - \gamma \alpha$ zonecfg * zone 8) $\gamma \gamma \gamma - \gamma \gamma - \gamma \gamma$ zonecfg 9) $\lambda \gamma \gamma \gamma - \gamma \gamma \gamma$	ab勤設定 (:zone01> set autoboot=false bolvit false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。	司時起動されます					
 ※ zone 3 Zonecfg Zonecfg × true <i>a</i> 6) Resource Poor Zonecfg × zone 7) スケジューラの Zonecfg × zone 8) インターフェー Zonecfg 9) ネットワークイ Zonecfg	起動設定 (:zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に の問連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 	司時起動されます			ι zone Φ F		
 * Zone of a bit Zoneofg 5) zone of a bit Zoneofg * true a 6) Resource Poor Zoneofg * zone 7) Z792-90 Zoneofg * zone 8) 129-72- Zoneofg 9) ネットワーク1 Zoneofg zoneofg 	起動設定 (:zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 の回連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Poolを指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Poolのスケジューラを指定します。 -スの共有設定 (:zone01> set ip-type=shared ンタフェースの設定 (:zone01> add net (:zone01> add net (:zone01:net> set address=XXX.XXX.XXX.XXX/XX (:zone01:net> set physical=vnet0 (:zone01>	司時起動されます			C zone Φ F		
 ※ Zone か自動i Zonecfg ※ true ま 6) Resource Poor Zonecfg ※ zone 7) スケジューラの Zonecfg ※ zone 8) インターフェー Zonecfg 9) ネットワークイ Zonecfg Zonecfg Zonecfg Zon	起動設定 (:zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 の間連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 	司時起動されます			C zone Φ F		
 x zone of a bit zone of a zone of a	ability abi	司時起動されます 回時起動されます					
 ※ zone か自動i zonecfg 5) zone の自動i zonecfg ※ true a 6) Resource Poor zonecfg ※ zone 7) スケジューラの zonecfg ※ zone 7) スケジューラの zonecfg ※ zone 8) インターフェー zonecfg 9) ネットワークイ ダークラーク マonecfg zonecfg zonecfg zonecfg x 他の z 就合し 10) 継承ティレク 	を動設定 (:zone01> set autoboot=false あるいは false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時にに ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。 	司時起動されます	n-global zo 7.		に zone の目 「 の継承 設定の	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	>−ルする場合 行う必要
 * Zone か自動i 5) zone の自動i Zonecfg ※ true ま 6) Resource Poor Zonecfg ※ zone 7) スケジューラの Zonecfg ※ zone 8) インターフェー Zonecfg 9) ネットワークイ Zonecfg Zonecfg	ab勤設定 (:zone01> set autoboot=false bolvia false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に (:zone01> set pool=pool_1 (:zone01> set pool=pool_1 (:zone01> set scheduling-class="FSS" (:zone01> set ip-type=shared (:zone01> set ip-type=shared (:zone01> set ip-type=shared (:zone01> set scheduless=XXX, XXX, XXX, XXX, XXX, XXX, XXX, XX	司時起動されます 	n-global zo 7-,	20日期時で 20日前日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10	に zone の目 す。 の継承設定の	ミション ション ション ション ション ション ション ション ション ション	>−ルする場合 示う必要
 * Zone of a bit Zoneofg 5) zone of a bit Zoneofg * true a 6) Resource Poor Zoneofg * zone 7) Z 7 2 - 7 0 Zoneofg * zone 8) 1 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 9) 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 9) 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 2 - 7 - 7 1 Zoneofg 10) # 3 - 1 - 2 - 1 Zoneofg 2 - 2 - 2 - 2 - 1 Zoneofg 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 -	ab勤設定 (:zone01> set autoboot=false bolvia false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Poolを指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Poolのスケジューラを指定します。	司時起動されます	n-global zo 7.Juhor 5.	2021時時 2021年7日 	に zone の目 す。 の継承設定の	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	→ールする場合 すう必要
 * Zone of a bit Zoneofg 5) zone of a bit Zoneofg * true a 6) Resource Point Zoneofg * zone 7) Zryz-ja Zoneofg * zone 8) Try-ja Zoneofg 2000 200 * zone 8) Try-7-71 Zoneofg Zoneofg 2000 200 * the zone * the	abab設定 (:zone01> set autoboot=false bolvia false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。 D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" で使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。	同時起動されます 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	n-global zo 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7- 7-	20日期時で この日本 この日本 この日本 この日本 この日本 にします この日本 二の日本 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	に zone の目 「。 ジルウェアなと の継承設定の	1 ゴ	<u>、</u> ールする場合 う必要
 * Zone of a bit Zoneofg 5) zone of a bit Zoneofg * true a 6) Resource Poin Zoneofg * zone 7) Z 7 5 2 - 7 0 Zoneofg * zone 8) T 9 - 7 - 7 1 Zoneofg 20 - 7 1 Zoneofg 20 - 7 1 Zoneofg 20 - 7 2 - 7 2 - 7 2 Zoneofg 20 - 7 2 - 7 2 - 7 2 Zoneofg 20 - 7 2 - 7 2 - 7 2 Zoneofg 20 - 8 - 7 - 7 2 - 7 2 Zoneofg 20 - 8 - 7 - 7 2 - 7 2 - 7 2 Zoneofg 20 - 8 - 7 - 7 2 -	ability abi	同時起動されます 	n-global zo 7.		に zone の目 「。 ジルウェアなと の継承設定の	1 ゴ む 和 い に む た う の 削 除 を 行 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	、 一ルする場合 行う必要
 * Zone か自動i Zonecfg 5) zone の自動i Zonecfg * true ま 6) Resource Poor Zonecfg * zone 7) スケジューラの Zonecfg * zone 8) インターフェー Zonecfg 9) ネットワークイ Zonecfg <	ababbbz (:zone01> set autoboot=false bolvit false を設定します。true を設定した場合は OS (global zone)起動時に同 ol の関連付け設定 (:zone01> set pool=pool_1 で使用する Resource Pool を指定します。) D設定 (:zone01> set scheduling-class="FSS" Cで使用する Resource Pool のスケジューラを指定します。	司時起動されます 	n-global zo 7		に zone の目 「。 の継承設定の	1	、 一ルする場合 丁う必要

・運用手	手順書	Oracle	Solaris ⊐:	ノテナを使う	ってみよう						実施日	3	2011年10月	3	
11) :	<u>共有ファイル</u>	システム()設定								-	-		-	
	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg	zone01 zone01 zone01 zone01 zone01 zone01 zone01	> add fs :fs> set :fs> set :fs> set :fs> enc >	dir=/cc special type=lc	lrom =/cdrom ofs				share デ 存在する mount ホ させるテ 存在しな	マレクト マティレク マントと マレクト ないディレ	リとなる「 トリを指定 なる「dir= ・リを指定し ・クトリでも	specia Eしま 」パラ します。 ら構い	al=」パラメ: す。 ラメタは non 。 ません。	タは globa -global zo	l zone に ne にマウン
	% global	zone တc	lromを共有	します。											
12) י	リソースパラ zonecfg	<mark>メータ(CP</mark> : zone01	<u>Uシェア数)</u> > set cp	<mark>の設定</mark> ou-shares	=1										
13);	zone の設定 zonecfg	≧確認 ∶zone01	> info												
14) ;	zone の設定 zonecfg:	<u>!の検証</u> :zone01	> verify	1											
15);	z <u>one の設定</u>	この確定													
	zonecfg	:zone01	> commit												
	※ 設定内	」容を確定	します。(省)	略可能)											
	zonecfg zonecfg zonecfg	∶zone01 ∶zone01 ∶zone01	> add de :fs> set :fs> enc	vice match=/	/dev/dsk/	cXdXsX									
	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01	> add de :fs> set :fs> enc >	vice match=/	′dev/rdsk/	/cXdXsX									
16);	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zone の設定 zonecfg	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01	> add de :fs> set :fs> enc > > exit	wice match=/	′dev/rdsk/	/cXdXsX									
16);	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 !容を終了	> add de :fs> set :fs> enc > > exit 	vice match=/	′dev/rdsk/	/cXdXsX									
16) ;	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg x 設定内 便和	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了	→ add de :fs> set :fs> enc → exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ	vice match=/ のプロンプト いンプトでは、 える場合は、 達	/dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドの	前一覧が表示 補完もされま								
16); 1(1); 1)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便利 源み zone の 使和	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01]容を終了 . zone01]容を終了 . zonecfg また、入: のインストー//	> add de :fs> set :fs> enc > > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ -ル ·前の確認	vice : match=/))フプロンプト(いプトでは、 る場合は、 逆	'dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力!	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドのネ	- 第一覧が表示 補完もされま								
16);)構成 1)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便和 家務み zone G global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?	> add de :fs> set :fs> enc > > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ -ル cfg -z 2	vice match=/ のブロンブト いプトでは、 このne01 '	/dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 を中まで入力I	/cXdXsX すと、入力候和 したコマンドの	- 第一覧が表示 補完もされま								
16);)構成 1)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便利 原本 global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : : zone01 ! ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?	> add de :fs> set :fs> enc > > exit して、通常の コマンドブロ 力候補があ -ル ·前の確認 cfg -Z 2	vice match=/))フロンプト(いンプトでは、 こ cone01 '	'dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力I info'	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドの社	- 第一覧が表示 第一覧が表示 第完もされま	示されます。 示されます。 です。	01# zope		-vc				
16);)構成 1)zo 2)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便和 global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : するをを了 : zone01 : するをを了 : zone01 : するをを了 : zone01 : するをを了 : zone01 : するのを了 : zone01 : zone1 : zone1	A add de :fs> set :fs> enc > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ -ル 前の確認 cfg -z 2 adm List	vice match=/))プロンプト ンプトでは、 こ cone01 '	'dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力I info'	/cXdXsX すと、入力候和	- 覧が表示 補完もされま	元されます。 元されます。 す。	01# zone AME S	eadm list STATUS	-vc PATH		В	BRAND IP	nared
16);)構成 1)zo 2)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便利 (便利 高み zone の 度 定の の 度 定 の を の を の の 定 の を の の の 定 の を の の の の	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 ! ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?) add de :fs> set :fs> enc)) exit して、通常の コマンドプロ 力候補があ cfg -z 2 adm list iを表示し、	vice match=/ のプロンプト(ルンプトでは、 る場合は、並 cone01 ' に - vc 構成した zc	(dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力) info' nne が表示さ:	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドの計	第一覧が表示 補完もされま	示されます。 ます。 global り N の g っ z	IO1# zone AME S lobal oneO1 c	padm list STATUS running configured	-vc PATH / /export/3	zones.	B /zone01 n	BRAND IP native sl ative sha	nared red
16);)構成 1)zo 2)zo 3)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便和 global0 me の状態を global0 ※ zone 0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?	> add de :fs> set :fs> enc > > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ cfg -z 2 adm list iを表示し、 行	vice match=/)))) フロンプト に コンプトでは、 2 3 場合は、 2 * * * * * * *	(dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力) info'	/cXdXsX すと、入力候和 レたコマンドの れることを確認	- 第一覧が表示 補完もされま 	元されます。 元されます。 す。	IO1# zone AME S Iobal f oneO1 c	eadm list STATUS running configured	-vc PATH / /export/:	zones.	B /zone01 n	BRAND IP native sl ative sha	nared red
16);)構成 2)zo 3)zo	zonectg zonectg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg 素 設定内 便利 原 協定の10 家 zone の状態を global0 ※ zone の global0 ※ zone の global0	: zone01 :	Add de · add de · fs> set · fs> enc · exit レて、通常の · の確認 cfg -z 2 adm list iを表示し、 行 · 加 · 行 adm -z z · ルを行いま	vice match=/ のプロンプト(ロンプトでは、 る場合は、並 cone01 ' に そのにのした zcc cone01 in です。数10分	(dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力 info' ne が表示さ nstal	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドの利 れることを確認 Jます。	着一覧が表示 着売もされま します。	示されます。 ます。 「Jobal 」 り り の g ー z	IO1# zone AME S lobal oneO1 c	eadm list STATUS running configured	-vc PATH / /export/:	zones.	B /zone01 n	BRAND IP native sl ative sha	nared
16);)構成 1)zo 2)zo 3)zo 4)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便和 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?容を終了 . : zone01] ?? . : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	Add de :fs> set :fs> enc > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ -ル cfg - Z 2 adm list 読表示し、 :行 adm - Z Z -ルを行いま	vice match=/ のプロンプト いプトでは、 cone01 ' : -vc 構成した zo cone01 in rす。数10分 (他のコンソ	(dev/rdsk, こ戻ります。 Tabキーを押 計中まで入力) info' ne が表示さ nstall 時間がかかり ールから実行	/cXdXsX すと、入力候社 はたコマンドの利 れることを確認 リます。 ・)	 第一覧が表示 第一覧が表示 第一覧が表示 	示されます。 「global 」DN のg っ z	IO1# zone AME S Iobal I oneO1 c	eadm list STATUS running configured	-vc PATH //export/:	zones.	B /zone01 n	RAND IP native sl ative sha	nared red
16);)構成 2)zo 3)zo 4)zo	zonectg zonectg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg ※ 設定内 便利 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 me のインス global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 ! ひを続て : zone01 ! ひを続て : zone01 ! ひを続て : zone01 ! ひを ! ひをたい ! ひの ! ひ ! ひの ! ひ ! む ! む ! ! ! ! ! ! ! ! ! !	Add de :fs> add de :fs> set: :fs> enc > exit して、通常の ローン・プローク たで見 ース 2 adm list 読表示し、 :行 adm -z 2 ·ルを行いま ・ 状態確認の adm list	vice match=/ のプロンプト(ルンプトでは、 る場合は、並 cone01 ' に そのe01 in す。数10分 (他のコンソ : - VC	/dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力 info' ne が表示さ nstal 時間がかかり ールから実行	/cXdXsX すと、入力候和 したコマンドの社 れることを確認 リます。 :)	着一覧が表示 着売もされま します。	示されます。 ます。 global りD N り g りの り り り り の g りの り り り り り り り り り り	IO1# zone AME S Iobal oneO1 c	eadm list STATUS running configured eadm list STATUS running	-vc PATH / /export/:	zones,	B /zone01 n	BRAND IP native sl ative sha BRAN native	nared red D IP shared
16);)構成 1)zo 2)zo 3)zo 4)zo	zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg x 設定内 便和 global0 x zone 0 global0 x zone 0 global0 x zone 0 global0 x zone 0 global0 x zone 0 global0 x zone 0 global0 x zone 0 y zone	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 : zone01]容を終了 .: zone01]容を終了 .: zone01]容を終了 .: zone01]容を終了 .: zone01]容を終了 .: zone01]容を終了 .: zone01] ?容を終了 .: zone01]? ?? .: zone01]? ?. zone01]? ?. zone0]? .: zone0] .: zone0]. .: zone0].: zone0]. .: zone0]. .: zone0].: zone0	Add de :fs> add de :fs> set: :fs> enc > exit レて、通常の コマンドプロ 力候補があ -ル cfg - Z 2 adm list 読表示し、 :行 adm - Z z -ルを行いま -状態確認 adm list であまっし、	vice match=/ のプロンプト いプトでは、 る場合は、注 cone01 ' 構成した zo (他のコンソ : -vc 糖(incomple	(dev/rdsk, こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力) info' ne が表示さ nstall 時間がかかり ールから実行 ete)が確認で	/cXdXsX すと、入力候相 したコマンドの利 れることを確認 リます。 :)	 第一覧が表示 第一覧が表示 第一覧が表示 第一覧が表示 	示されます。 「 」 「 」 「 」 の g 」 の g 」 の g 」 の g 」 の り の り の り の り の り の り の り の り の り の	IO1# zone AME S Iobal i Iobal i Iobal oneO1 i	eadm list STATUS running configured sadm list STATUS STATUS STATUS	-vc PATH //export/: -vc PATH //export/:	zones,	/zone01 n es/zone01	BRAND IP native sl ative sha BRAN native native	nared red D IP ⇒ shared shared
16);)構成 2)zo 3)zo 4)zo 5)zo	zonectg zonectg zonectg zonecfg zonecfg zonecfg zonecfg w 設定内 便利 (便利 (原利 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0 ※ zone 0 global0	: zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 : zone01 ! ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?	Add de Add de :fs> set: :fs> enc > exit して、通常の 	vice match=/ のプロンプト(ルンプトでは、 る場合は、並 cone01 ' : -vc 構成した zc cone01 in i, ox cone01 in cone01 in cone0	(dev/rdsk/ こ戻ります。 Tabキーを押 き中まで入力) info' ne が表示さ: nstall 時間がかかり、 ールから実行 ete)が確認で	/cXdXsX すと、入力候補 したコマンドの社 れることを確認 見ます。 :) :きます。	#一覧が表示 #完もされま	تَدَخَعُنَّةُ اللَّهُ اللَّالِي اللَّهُ اللَّهُ الْحُالَةُ اللَّهُ الللَّهُ اللَّهُ اللَّهُ اللَّهُ اللَّهُ اللَّالِي اللَّالِي الْحُلُقُلُولُ اللَّالِي اللَّالِي اللَّالِي اللَّالِي اللَّالِي اللَّالِي اللَّالِي الْحُلُقُلُ اللَّالِي الْحُلُقُلُولُ اللَّالِي	IO1# zone AME S Iobal oneO1 c Iobal oneO1 c IO1# zone AME S	eadm list STATUS running configured eadm list STATUS running incomplet eadm list STATUS	-vc PATH / /export/: -vc PATH te / export	zones,	/zone01 n	BRAND IP native sla ative sha BRAN native native	nared red D IP e shared shared

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう				実施日	2011年10	₹	
(5)インストール済み	- Sy zone の起動				-		-	
1) インストール	した zone の起動	zone	の起動	助·停止操	作については	次の章で讃	しく実施し	ノます。
	の記動方法になります。							
		alahal	01# 70	noodm list	-110			_
2) zone of the	名表示 01年 zoneadm list -vc	ID N	AME	STATUS	PATH	1	BRAND IP	
※ 起動	した zone の状態(running)を確認します。	0 g 1 z	lobal one01	running running	/ /export/zone	s/zone01 n	native sha ative shar	ed
(6) 初回起動時の	zone のセットアップ【参算】							
1) zone ou	7-μαστ2 01# zlogin -C. zone01							
grobar * zone	をインストールしたら、zoneの運用を始める前に、必ずコンソールログイ	インして初期設定	を行う	以要がありま	to.			
※ 初期	設定を実施しなかった場合、必要なサービスが正常に起動しません。							
* zone	が起動している状態で美行してたさい。							
2)zone の初回	セットアップ	設定	≧値(例)				
		Langua	age		1.Japanese			
		Local 端末タ	イプ		3)DEC VT100	JC (ja)		
1	操作方法	Host N	ame	rity	(任意に設定)			
Host Nar	ne以降の設定は、[矢印キー]でカーソル移動、[space]で選択し、	Name	Service	iiity	None			
[Esc] [2	」で次の画面へ移動します。	NFSv4 Time Z	<u>Domain</u> Cone	name	Use the NFSv2 Asia	domain deriv	ied by the s	system
		Countr Root R	y or Reg	gion	Japan (任音に設定)			
		ROOT P	assword		(て息に設定)			I
3) コンソール接	続を閉じる							
zone01	console login:							
zoneuT 「ゾーン	console login / 'zone1' コンソールへの接続が閉じられました]							
global	01#							
	「~」(チルダ)を	入力し「」	(ドット)を入力し	ノます 。			
	(注音)							
	「ご」を入力した	:直後は画面に	表示され	れません。				
	「.」を入力した	後に同時に「	」が表示	されます。				

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	実施日	2011年10月	
		-	-	
【参考】その他の)zonecfg 設定例			
1)リソースプール	の関連付け設定変更(新しい設定が上書きされます。)			
zonecfg	zone01> set pool=pool_default			
2) IP <u>アドレスの変</u>	更			
zonecfg	zone01> select net address=XXX XXX XXX XXX/XX			
zonecfg	zone01:net> set_address=XXX. XXX. XXX. XXX/XX			
zonecfg	zone01; net> end zone01>			
3)設 <u>定の削除(</u>	剤:共有ファイルシステムの設定の削除)			
zonecfg	zoneO1> remove fs dir=/mnt			
4) 設定の中止(作	1):共有ファイルシステムの設定の中止)			
zonecfg	zone01> add fs			
zonecfg	zoneOl:fs> set dir=/mnt zoneOl:fs> cancel			
zonecfg	zone01>			

・運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	実施日	2011年10月
Solaria 7**			
	ナノ の 書		
) 起動・停止・ログ 1) zono の状態			
	ααχν N1# zoneadm list -vc		
grobar			
2) zone の起動	・再起動・停止操作(緊急時)		
1. <u>zone の</u> ≢	見起動(緊急時再起動用)		
global	UI# zoneadm -z zoneul reboot		
2. zone of	<u>テレ(繁急時停止用)</u> 014		通常運用時の停止や再起
			「劉と��靫しくみましょう。
3. zone 0	行成 01# zoneodm -z zone01 ready		※zone は起動する毎に
			zone IDが更新されます。
4. Zone of	起動(連串起動) 01# zoneadm -z zone01 hoot		
grobar)	
3) イ <u>ンタラクテ</u>	ィブモード(対話型)でのログイン		
global	01# zlogin zone01		
※ インタ	マラクティブモードは「exit」もしくは「^.」でコンテナからログアウトできます。		
4) ノンインタラ	クティブモード(非対話型)での zone 操作		
global	01# zlogin <mark>zone01</mark> 'cat /etc/hosts'		
× zone	で実行したコマンドの結果のみを表示します。(対話型コマンドは実行できません。)		
※ オプシ	/ョン - [ユーザ名] で実行ユーザを指定することが可能です。		
注音】 実行したい	でください		
主意】実行しない zono を i	でください。 maamplata 特徴にナスコフィルド		
<mark>注意】実行しない</mark> zoneをi	でください。 ncomplete 状態にするコマンド D1# zoneadm =z zone01 mark incomplete		いやおにかります
<mark>注意】実行しない</mark> zoneをi globall	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete Z	 one は使用できない	い状態になります。
<u>t意]実行しない</u> <u>zone を i</u> globali 5) zone の起動 1. <u>zone の</u>	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete Z ・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zonean zone01 'sbutdown -x ==0 ==i6'	one は使用できない	い状態になります。
<u>zone をi</u> globali 5) zone の起動 1. zone の globali	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete い再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止	one は使用できない	い状態になります。
<u>t</u> 意] 実行しない <u>zone を i</u> globali 5) zone の起動 1. <u>zone の</u> globali 2. <u>zone の</u> globali	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 2 い再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5'	one は使用できない	い状態になります。
<u>t</u> 意] 実行しない <u>zone を i</u> globali 5) zone の起動 1. <u>zone の</u> globali 2. <u>zone の</u> globali	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 2 い再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5'	one は使用できない	い状態になります。
<u>t</u> 意] 実行しない <u>zone を i</u> globali 5) zone の起動 1. <u>zone の</u> globali 3. <u>zone の</u> globali	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 2 ・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s	one は使用できない	い状態になります。
<u>t</u> 意] 実行しない <u>zone を i</u> globali 5) zone の起動 1. <u>zone の</u> globali 3. <u>zone の</u> globali 4. <u>zone の</u>	でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 「・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動	one は使用できない	い状態になります。
<u>t</u> 意] 実行しない zone を i globali 5) zone の起動 1. zone の globali 2. zone の globali 3. zone の globali 4. zone の	マください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 小再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zlogin zone01	one は使用できない	い状態になります。
t家] 実行しない zone を i globali 5) zone の起動 1. zone の globali 3. zone の globali 4. zone の globali (ゾーン	マください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 2 い再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 月起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s	one は使用できない	い状態になります。
t家] 実行しない zone を i globali 5) zone の起動 1. zone の globali 2. zone の globali 4. zone の globali [ゾーン Last li	<pre>でください。 ncomplete 状態にするコマンド O1# zoneadm -z zone01 mark incomplete i・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 O1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 O1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' ジングルユーザモード起動 O1# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 O1# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2</pre>	one は使用できない	∨状態になります。
t家] 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald [ゾーン Last li Sun Min #	マください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete マ い再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 門・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zlogin zone01 / 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 / 'shutdown -y -g0 -i5' pcone01 / pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005	one は使用できない	○状態になります。 「緊急時の停止や再起動と
t家) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald [ゾーン Last lu Sun Mid # # shut	マイださい。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete マ 1・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 門・再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zlogin zone01 / zone01 boot -s 万月起動 01# zlogin zone01 pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6	one は使用できない	○状態になります。 「「「「「」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「 「」 「 「」 「 「」 「 「
t家) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald 4. zone の globald 4. zone の globald 4. zone の globald 5. zone の globald 4. zone の globald 5. zone 0 globald 5. zone 0 5. zone0 5. zone 0 5. zone 0 5. zone 0 5. zone 0 5. zone 0	<pre>でください。 ncomplete 状態にするコマンド D1# zoneadm -z zone01 mark incomplete D1# zoneadm -z zone01 mark incomplete i再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 D1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 D1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 D1# zlogin zone01 boot -s 再起動 D1# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました]</pre>	one は使用できない	、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※ zone は記動する毎に
t家) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zoneの globald 3. zoneの globald 4. zoneの globald 4. zoneの globald [ゾーン Last ld Sun Mid # shut #	<pre>でください。 ncomplete 状態にするコマンド O1# zoneadm -z zone01 mark incomplete O1# zoneadm -z zone01 mark incomplete **再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 O1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' /* zone01 ishutdown -y -g0 -i5' /************************************</pre>		 、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone を i globali 5) zone の起動 1. zone の globali 3. zone の globali 4. zone の globali [ゾーン Last li Sun Mie # shut # shut 5. zone の	<pre>でください。 ncomplete 状態にするコマンド O1# zoneadm -z zone01 mark incomplete O1# zoneadm -z zone01 mark incomplete **再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 O1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' /* /* /* /* /* /* /* /* /* /* /* /* /*</pre>		 ・状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ×zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家] 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald [ゾーン globald 5. zone の globald	<pre>でください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete 2 *再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 01# zlogin zone01 > 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 > 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] 01# 停止 01# zlogin zone01</pre>		 、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 4. zone の globald [ゾーン globald 5. zone の globald (ブーン globald (ブーン	<pre>でください。 ncomplete 状態にするユマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete i-再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 ishutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] 01# 停止 01# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] 01#</pre>		、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone をi globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 4. zone の globald [ゾーン Last ld Sun Mid # shut # shut # shut [ゾーン globald [ゾーン globald [ゾーン globald [ゾーン globald [ゾーン globald	<pre>でください。 ncomplete 状態にするユマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete **再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 jshutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 boot -s 再起動 01# zlogin zone01 // zone01 jshutdown -y -g0 -i5' crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 // 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] 01# feu 01# zlogin zone01 // 'zone01' pts/2 に接続されました] 01# feu 01# zlogin zone01 // 'zone01' pts/2 に接続されました] 01#</pre>		 、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 Xzone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 2. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald 4. zone の globald 5. zone の globald	<pre>でください。 ncomplete 状態にするユマンド D1# zoneadm -z zone01 mark incomplete D1# zoneadm -z zone01 mark incomplete P===================================</pre>		、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone をi globald 5) zone の起動 1. zoneの globald 2. zoneの globald 3. zoneの globald 4. zoneの globald 4. zoneの globald 5. zoneの globald 5. zoneの globald 5. zoneの globald (ジーン Last lo Sun Mid # # shutu # shutu # shutu # shutu # shutu	<pre>マください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete i= #200 7 #20gin zone01 ' shutdown -y -g0 -i6' /# // // // // // // // // // // // // /</pre>		^N 状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
t家) 実行しない zone をi globald 5) zone の起動 1. zoneの globald 2. zoneの globald 3. zoneの globald 4. zoneの globald 4. zoneの globald 5. zoneの globald 5. zoneの globald 5. zoneの globald 5. zoneの globald (ジーン Last ld Sun Mid # # shut [ジーン Last ld Sun Mid [ジーン	<pre>マください。 ncomplete 状態にするコマンド 01# zoneadm -z zone01 mark incomplete i= #280 ·@上操作(通常運用時) #280 ·@上操作(通常運用時) #280 ·@L 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' @L 01# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 01# zlogin zone01 boot -s #280 01# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] 01# @L 01# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i5 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i5</pre>		N状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
tੇ意) 実行しない zone を i globald 5) zone の起動 1. zone の globald 3. zone の globald 4. zone の globald 4. zone の globald 5. zone の globald 5. zone の globald 5. zone の globald 5. zone の globald 5. zone の globald 5. zone の globald (ゾーン globald 5. zone の globald (ゾーン globald 5. zone の globald (ゾーン globald (ゾーン globald (ゾーン globald)	<pre>てください。 ncomplete 状態にするコマンド Ol# zoneadm -z zone01 mark incomplete 再起動 Ol# zoneadm -z zone01 mark incomplete</pre>		N状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
 まま) 実行しない zone の起動 1. zoneの globall zoneの globall zoneの globall zoneの globall zoneの zoneの<td><pre>マください. ncomplete 状態にするコマンド Ol# zoneadm -z zone01 mark incomplete 再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 Ol# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 使止 Ol# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' >>グルユーザモード起動 Ol# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 Ol# zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i5 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] # 起動 </pre></td><td></td><td>、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。</td>	<pre>マください. ncomplete 状態にするコマンド Ol# zoneadm -z zone01 mark incomplete 再起動・停止操作(通常運用時) 再起動 Ol# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 使止 Ol# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' >>グルユーザモード起動 Ol# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 Ol# zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i5 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] # 起動 </pre>		、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。
 まま) 実行しない zone の起動 1. zoneの globali 2. zoneの globali 2. zoneの globali 3. zoneの globali 4. zoneの globali 4. zoneの globali 5. zoneの globali [ゾーン globali 6. zoneの globali 	<pre>でくたさい. ncomplete 状態にするコマンド D1# zoneadm -z zone01 mark incomplete i-再起動・停止操作 (通常運用時) 再起動 D1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i6' 停止 D1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' シングルユーザモード起動 D1# zoneadm -z zone01 boot -s 再起動 D1# zlogin zone01 ~ 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i6 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] D1# 使止 D1# zlogin zone01 / 'zone01' pts/2 に接続されました] ogin: Wed Oct 31 15:16:39 on pts/2 crosystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005 down -y -g0 -i5 / 'zone01' pts/2 への接続が閉じられました] # EBD D1# zone01' pts/2 への接続が閉じられました] # D1# zone01' pts/2 への接続が閉じられました] # D1# zone01' pts/2 への接続が閉じられました]</pre>		、状態になります。 緊急時の停止や再起動と 比較してみましょう。 ※zone は起動する毎に zone IDが更新されます。

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	実施日	2011年10月	
 (2) zone におけるブロ 1) global zone 1. 通常のブロ 夏lobal01 	カセスの見え方 カセス確認 # ps -ef # ps -ef wc - 動作している zone 名を表示して確認 # ps -efZ # ps -efZ # ps -efZ grep zone01 いるプロセスのスケジューリングクラスを表示して確認 # ps -efc # ps -efc grep /sbin/init		global zone と プロセスが表え	non-global zone の 示されます。
 2) non-global zo 1. インタラク global01 2. 通常のブロ # ps -et # ps -et 3. プロセスが # ps -et 4. 動作してし # ps -et 5. インタラク # exit 「ゾーン global01 	ne ディブモードでログイン # zlogin zone01 1セス確認		表示結果 みましょう。	き比較して

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみ	よう		実施	日 2011年1)月	
2章 応用編	8						
	ナの檜師彊増利用						
(T) Solaris コンデ) 1) 構成ファイル(ッローンの卒補 の作成と編集						
global0	<u>r</u> 1# zlogin zone01 'shutdown	-v -g0 -i5'					
0		, ,					
2. zone の*	犬態を表示 1# zopoodm ligt _vo		4	<u> /10-ン</u>	元の zone が	宅全に停止し	ていることを
	1# ZONEAUNI TISL -VC D状能一覧を表示して状態を確認します			確認して	ください。		
2 zono の構	ポファイルを有制						
global0	1# zonecfg -z <mark>zone01</mark> expor	t -f /export/zones	s/zone01_master_file	複製し	た zone の構成 名を指定する	ファイル名は ことができます	は任意の す。
[参考] 編	集前の/export/zones/zone01_maste	r_file					
global01	# cat /export/zones/zoneO1_ma	ster_file					
create -	/zones/zoneU1_master_tile" 33 b	17、546 ハイト					
set zone set auto	path= /export/zones/zone01 boot=false						
set pool	=pool_1						
set sche set ip-t	ype=shared						
add fs set dir=	/cdrom						
set spec	ial=/cdrom						
end	=1018						
add net set addr	ess=XXX, XXX, XXX, XXX/XX						
set phys	ical=vnet0						
ena		-<省略>-					
4. <u>複製した</u> 構	<mark>成ファイルの編集</mark>			zone名	や、IPアドレス	くどは、設定	一覧を
globalo	I# VI / export/ Zones/ Zoneu I_	_master_life		一参照し、	、読み替えて設	定してくださ	<i>د</i> ،
[参考] 編(集後の/export/zones/zone01_maste	r_file					
global01 "/export	# vi /export/zones/zone01_mas /zones/zone01_master file" 33	ter_file 行、546 バイト					
create -	b path=/export/zones_clone/zon	e02	h- /ovport /rener along /		5		
set auto	boot=false	zonepat	n-/ export/ zones_cione/ zo	neuz へ変」	E		
set pool set sche	=pool_l duling-class=FSS						
set ip-t add fs	ype=shared				_		
set dir=	/mnt <	global zone 20	の共有ファイルシステムを /m ne のマウントポイントを /mnt	Int へ変更 へ変更			
set spec set type	=lofs	※任意の値に	設定してください				
end add net		ID address # #					
set addr	ess=XXX. XXX. XXX. XXX/XX -	IF address & 3					
end	I Gal-Vnelu						
		<省略>-	山东東ナッツ エジェリナナ				
* zonepa	atn とIPアドレム、テバイス情報などは複	聚 元の構成と重複するた	の変更する必要かあります。				

構築·運用手順書	Oracle Solaris	コンテナを使ってみよう			実施日	2011年10月	
2)編集した	た複製ファイルを使って親	所規 zone の構成			-		
glo	bal01# zonecfg -	z zone02 -f /export/zones	/zone01_master	_file			
3) zone Ø)状態確認						
glo	bal01# zoneadm	ist -vc		\sim			
			alobal01# zon	eadm list -vc			
				STATUS PATH		BRAND IP	he
			- zone01	installed /export/z	ones/zone01 nes.clone/zone	native sha	red
(2) Solaris ⊐:	ンテナクローン作成						
1. 複裂	<u>& zoneO2 の作成</u> bbalO1# zoneadm -	z zone02 clone zone01					
/ex	<pre>xport/zones/zone1</pre>	をコピーしています					
81 C	約30分程かかります。		「grep: は問題	can't open /a/etc/dun [はありませんので無視	npadm.conf」 してください。	メッセージ	
2. zone	e の状態確認						
glo	bal01# zoneadm l	ist -vc					
			alobal01# zon	andm list -vo			
			ID NAME	STATUS PATH		BRAND IP	
			- zone01	installed /export/	zones/zone01	native sha native sh	ared
			- 2011002		ones_cione/ zor		shareu
3. zone	<u>02の起動</u> bhal01# zoneadm -	z zone02 hoot					
810							
4. zone	e のコンソールログイン() hal01#_zlogin()	初期設定) zone02					
810		201002					
* 1 * 2	初期設定を実施しなか。 zone が起動している状	った場合、正常にコンテナが起動しない 態で実行してください。	ので必ず実行する必	要があります。			
5. zone	e の初回セットアップ			設定値(例)			
				Language	1.Japanese		
				Local 端末タイプ	0.Japanese E 3)DEC VT100	UC (ja))	
	操作方法			Host Name Korboros Socurity	 (任意に設定) 	·	
Host	t Name以降の設定は、	[矢印キー] でカーソル移動、[space] ⁻	で選択し、	Name Service	None	A domain domina	I by the evotem
[ESU	し[2]で次の画画へ後頭	ぬします。		Time Zone	Asia		i by the system
				Root Password	Japan (任意に設定)		
6. <u>_4–</u>	ビスの確認		サービス	の状態である「STATE」の	の部分に		
# s	svcs -a			run"、"disabled"、"onl	ine"、"offline"	,	
			663F072	(小小なり、ここで唯識し)	.		
7. コン	ソールを閉じる						
#~.			+ 1 + 1				
glo	ーン Zonei コ: bbal01#	ノノールへの接続か闭しられ	τυμ: τ [^τ](f	ルダ)を入力し「.」(ド	ット)を入力	します。	
L							
			│ <注意> 「 [~] 」を	入力した直後は画面に表	示されません		
			ے۔ ریاح	入力した後に同時に「」」カ	表示されます。	**	古 アノギン
			一先に	」のみ表示された場合は	、' Enter Jを一	ミ押し、 冉度や	していてい。

ら・運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使っ	てみよう		実施日	2011年10月	3
) Coloria T*A	二十个铁动运行到田					
	ナノリシン対象現代的					
1) Solaris コンテナ 1) zone の確認。	の移動 と切り離し		# zoneadm list	-VC STATUS PATH		BRAND IP
1. zone の状	態確認		0 global	running /		native shared
globalO	1# zoneadm list -vc		- zone01 10 zone02	installed /expo running /expo	ort/zones/zone rt/zones_clone/	01 native shared /zone02 native share
※ 移動さ	せるコンテナ(zone01)が完全に停	『止している(installed)ことを確認し	てください。			
2. <u>zone の切</u>	り離し					
globalO	1# zoneadm -z zone01 de	tach	く detach する に変わります	と、zone の状態 -	まか installed	から configured
× zone	を切り離して移動できる状態にします	す。		•		
3. <u>ディスク</u> 容	量の確認		global01# df -	h		
globalO	1# df -h			サイズ 使用		容量 マウント先
× zone	のアーカイブの配置先と容量の確認	Rをします。移動させる zone の容量	に依存します	050 7.90 4.	-<省略>-	J4 /0 /
4. zone のア	ーカイブデータ作成		/dev/dsk/cOd /dev/dsk/cOd	1s0 7.8G 7. 4s0 5.9G 4.	9M <mark>7.7G</mark> 0G 1.8G 6	1% /zone_tar_list 59%
global0	1# cd /export/zones		/export/zones	_patch		SON /oxport/zopos
globalO	1# tar -cfE /zone_tar_l	ist/ zone01.tar ./zone01	/dev/dsk/c0d	2s0 5.90 4. 3s0 5.9G 4.		59% / export/ zones
5 7000 04	8232					
	1# zoneadm -z zone01 at	tach			るアーカイフ(F.	ルサイスは4GBに
g105010	ち組み込んで使用可能状態にしま?	+		4GB以.	'。 上の領域があ	ることを確認します。
くご参考 zone が生り zone	う の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使	īすると、zonepath 上に zo 「報やパッケージ/パッチ等 「用されます。	ne の構成情報ファイル の情報が記載されてお	SUNWattache	d.xml	
くご参考 zone が生り zone	i> の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使	īすると、zonepath 上に zo 情報やパッケージ/パッチ等 用されます。	ne の構成情報ファイリ の情報が記載されてお	SUNWattache	d.xml	
< ご参考 Zone が生り Zone 2) アーカイブ転	の切り離し (detach) を実行 の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 <u> 紫</u>	テすると、zonepath 上に zo 情報やパッケージ/パッチ等 用されます。	ne の構成情報ファイル の情報が記載されてお	SUNWattache	d.xml	
<このキ この中 が生り この中 2) アーカイブ転記 global0	の切り離し (detach) を実行 なされます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 ・ ・・・・・・・・・・・	テすると、zonepath 上に zo 情報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの	ne の構成情報ファイル の情報が記載されてお 開始	y SUNWattache	d.xml	
<このキャンプログロン (この) (この) (この) (この) (この) (この) (この) (この)	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使	テすると、zonepath 上に zo f報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始	SUNWattache	d.xml	
<この様 この他 が生り この他 2) アーカイブ転送 global0 Connect 220 glo Name (X	 の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 素 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX. XXX. ed to XXX. XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. XXX. root): XX 	テすると、zonepath 上に zo 持報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユ-	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 -ザ名	SUNWattache	d.xml	
<このe が生り zone が生り zone 2) アーカイブ転込 global0 Connect 220 glo Name (X 331 Pas	の切り離し (detach) を実行 成されます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. root): X sword required for XXXX d: YYYYY	テすると、zonepath 上に zo 新報やバッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインするユー	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名	SUNWattache	d.xml	
<このキャンション くご参考 この中 が生り この中 の が生り この中 の の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 し この日 の この中 し この日 い この中 し この日 い この中 し この日 い この中 し この日 い この中 し この日 い この中 し この日 い この中 この中 し この日 い この中 この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この中 この日 この この日 この この中 この日 この この日 この この日 この この日 この日 こ	の切り離し (detach) を実行 成されます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX:root): X sword required for XXXX d: XXXXXX	Fすると、zonepath 上に zo 報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません)	y SUNWattache	d.xml	
<このキャント くご参考 この中 が生り この中 のが生り この中 の の この中 の の の に この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 し このー た この中 し このー た この中 し このー た この中 この中 し このー た この中 この中 この中 この中 この中 この中 この中 この中	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX:root): X sword required for XXXX d:XXXXXX r root logged in. system type is UNIX.	Fすると、zonepath 上に zo f報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され	ne の構成情報ファイル の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません)	SUNWattache	d.xml	
くご参考 zone が生り zone 2)アーカイブ転ご global0 Connect 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi ftp> bi	うの切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. root): X sword required for XXXX d: XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer in n	fすると、zonepath上に zo f報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ. (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定	y SUNWattache	d.xml	
<この様 この他 が生ま この他 ですます この他 この他 この他 この他 この他 この他 この他 この他	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2011年10日の 2011年10月の 2011年10月 2011年101 2011年10月 2011 2011 2011 2011 20111	Totaと、zonepath上に zo 新報やバッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され files. ←バイナリ転送モード	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定	SUNWattache	d.xml	
<このキ この中 が生り この中 で生り この中 で生り この中 の で生り この中 の で生り この中 の で生り この中 の し この中 の で し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 し この中 の し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この い の し この の い た こ この の い た こ こ の い の に い こ の い の に い こ の い の に い こ の い の い い こ の い い い こ の い い こ の い い こ の い い こ の い い こ の こ の い こ の い い こ の い い こ の い い こ の い い こ の い い こ の い い こ の い い た い こ の い い こ の い い こ の い こ の い い こ の い い い た い こ の い こ の い い こ の い こ の い い い い こ の い こ の い い こ の い い こ の い い こ の こ の い こ こ の こ の い い こ の い こ の こ の い い こ の い っ い こ の い っ い こ の い っ の つ い つ い っ い こ の い っ い つ い い い つ い い っ い い つ い い の い い っ い っ い い い い い い い い い い い い い	の切り離し (detach) を実行 成されます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2011年1000000000000000000000000000000000	Fすると、zonepath上に zo 報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード ←リモートカレントデ	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動	SUNWattache	d.xml	
<このキャント くご参考 この中 が生り この中 のが生り この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の 、 この中 の の い 、 い の い 、 い の い 、 い の い 、 い の い の い い い い い い い い い い い い い	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. inot): X sword required for XXXX d iXXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer n e set to I. /zone_tar_list command successful. d /zone_tar_list	fすると、zonepath上に zo f報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード ←リモートカレントデ ←ローカルのカレント	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動	SUNWattache	d.xml	
<このキャント くご参考 この中 が生り この中 の なした この中 の の この中 の の この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 の し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この中 し この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 の この日 い この日 の この日 い この日 の この日 の この日 この日 の この日 この日	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2014年のの目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前の目前	fすると、zonepath上に zo f報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ. (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード・ ←リモートカレントデ ←ローカルのカレント・ list	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動	SUNWattache	d.xml	
<この様 こので ジ生 こので ジ生 こので ジーカイブ転送 ないので に 20 アーカイブ転送 の ないので この の の この に 20 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b 5 ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> lo Local d ftp> lo しのにのは	の切り離し (detach) を実行 なされます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 と 生 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX. ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. root): X sword required for XXXX d: XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer · n e set to I. / zone_tar_list command successful. d /zone_tar_list irectory now /zone_tar_ wd ar_list	right for the set of the set	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認	SUNWattache	d.xml	
<この中 くご参考 Zone が生り Zone の な 2) アーカイブ転送 globalO Connect 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> lo Local d ftp> pu /zone_t ftp> pu	の切り離し (detach) を実行 なされます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使	Total Solution The second state of the seco	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<この中 くご参考 Zone が生ま Zone ジローン 2) アーカイブ転送 globalの Connect 220 glo Name (X 331 Pass Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> Di Cocal di ftp> Di 200 Typ 7 Zone_t ftp> Dy 200 Typ	の切り離し (detach) を実行 なされます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX.XXX.XXX.XXX ed to XXX.XXX.XXX.XXX. bal02 FTP server ready. XX.XXX.XXX.XXX:root): X sword required for XXXX d:XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer for n e set to I. / zone_tar_list irectory now /zone_tar_ wd ar_list t zone01.tar T command successful. ning BINARY mode data command	fすると、zonepath上に zo 報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード ←リモートカレントデ ←ローカルのカレント ist ←ローカルのカレント ←ファイルのアップロー onnection for zone01.tar	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<この中 くご参考 Zone が生り Zone 2)アーカイブ転送 global0 Connect 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> lo Local d ftp> lo Local d ftp> po Local d	の切り離し (detach) を実行 なされます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. root): X sword required for XXXX d XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer n e set to I. /zone_tar_list command successful. d /zone_tar_list t zone01. tar T command successful. ning BINARY mode data consfer complete.	すると、zonepath上に zo 無やパッケージ/パッチ等 用されます。 \leftarrow global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX \leftarrow ログインユーザのパ (実際には表示され files. \leftarrow パイナリ転送モード \leftarrow リモートカレントデ \leftarrow ローカルのカレント list \leftarrow ローカルのカレント \leftarrow ファイルのアップロー connection for zone01.tar.	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<この中 くご参考 Zone が生り Zone 2)アーカイブ転送 global0 Connect 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> bi Local d ftp> bi 200 POR 150 Ope 226 Tra local: 1051740	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2011年1111000000000000000000000000000000	すると、zonepath上に zo 新報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ、 (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード・ ←リモートカレントデ ←ローカルのカレント・ ドローカルのカレント・ ←ファイルのアップロ・ connection for zone01.tar.	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<こので くご参考 Zone が生り Zone ジローン ないた 20 アーカイブ転達 globalO Connecto 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> bi 200 Typ ftp> cd 250 CWD ftp> bi 200 POR 150 Ope 226 Tra 1051740 10517555 1051740 10	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2010年の 11 ftp XXX. XXX. XXX. XXX ed to XXX. XXX. XXX. XXX. bal02 FTP server ready. XX. XXX. XXX. XXX. XXX. XXX. sword required for XXXX d: XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer r e set to I. / zone_tar_list t zone01. tar remote: zone0 1. tar remote: zone0 9280 bytes sent in 4. 5er e	red for the second	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<この中 くご参考 Zone が生り Zone ジロー 2) アーカイブ転達 globalの Connect 220 glo Name (X 331 Pas Passwor 230 Use Remote Using b ftp> bi 200 Typ ftp> od 250 CWD ftp> lo Local d ftp> pu 200 POR 150 Ope 226 Traa local : 1051740 ftp> by	の切り離し (detach) を実行 成されます。zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 2011年の11日の 2011年の 20	すると、zonepath上に zo 新報やパッケージ/パッチ等 用されます。 \leftarrow global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインするユー XX ←ログインするユー XX ←ログインするユー (実際には表示され files. $\leftarrow パイナリ転送モード \leftarrow リモートカレントデ\leftarrow ローカルのカレントist\leftarrow ローカルのカレント\leftarrow ファイルのアップローconnection for zone01.tar.01.tar+02 seconds (22591.41 Kby\leftarrowftpの終了$	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード	SUNWattache	d.xml	
<pre>< C ** Zone</pre>	の切り離し (detach) を実行 成されます。 zone の構成情 の組み込み (attach) 時に使 1# ftp XXX.XXX.XXX.XXX ed to XXX.XXX.XXX.XXX. ed to XXX.XXX.XXX.XXX. bal02 FTP server ready. XX.XXX.XXX.XXX:root): X sword required for XXXX d:XXXXXX r root logged in. system type is UNIX. inary mode to transfer for n e set to I. / zone_tar_list irectory now /zone_tar_ wd ar_list t zone01.tar T command successful. ning BINARY mode data consfer complete. zone01.tar remote: zone0 9280 bytes sent in 4.5er e	fすると、zonepath上に zo 報やパッケージ/パッチ等 用されます。 ←global02へftpの XXXXX ←ログインするユー XX ←ログインユーザのパ、 (実際には表示され files. ←パイナリ転送モード・ ←リモートカレントデ ←ローカルのカレント ist ←ローカルのカレント・ ←ファイルのアップロー onnection for zone01.tar. 01.tar +02 seconds (22591.41 Kby ←ftpの終了	ne の構成情報ファイJ の情報が記載されてお 開始 ーザ名 スワード いません) の指定 ィレクトリの移動 ディレクトリの移動 ディレクトリの確認 ード ytes/s)	SUNWattache	d.xml	

築・運用 ヨ	手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	実施日	2011年10月
(2) 災対 1)ア	環境での So ーカイブの展	laris コンテナ起動 開と組込み		
23	こからは、もう	う1台のサーバでの作業となります。		
1.	アーカイブの	D展開		
	global02 global02	2# cd /export/zones_disaster 2# tar -xf /zone_tar_list/zone01.tar アーカイブの展開には、F	時間がかかり	ます。
	≫ zone σ.)データを移行先ホストで展開します。		
2.	新規 zone	の構成	一十次の一	
	global02	2# zonecfg -z zone01 create -a /export/zones_disaster/zone01	ate 直後の Ze ます。	oneの状態は configured に
3.	zone の状態	遺を確認		
	global02	# zoneadm list -vc		
4.	<u>移行した z</u> c	one ወ組み込み		
	global02	2# zoneadm -z zone01 attach	ch することに figured から	こより、zone の状態が installed に変わります。
5.	zone の状態	遺を確認		
	global02	2# zoneadm list -vc		
6	zone01 Φ	お動		
0.	global02	₩ zoneadm -z zone01 boot		
	ジンジャンジャンジャンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョンジョン	記動し、動作確認をします。		
2) zo	ne01 を停止	LT3		
	global02	2# zlogin <mark>zone01</mark> 'shutdown −y −g0 −i0'		
	L			

構築·運用	手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実施日	2011年10月	
				-		
2-3. Sola	ris コン:	テナ環境におけるリソース操作				
(1)リソ-	-ス操作の署	革前準備と確認				
1) 70	one の起動					
17 20	globalC	1# zoneadm -z zone01 boot				
2) IJ	ソースの設置				A 4	
1.	global	ロークローク IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	zone: 23: zone01	.cpu-snares -i	zone zone01	
	※ 実行約	ま果より、privileged 権限の VALUE の値を確認します。	NAME PRIVILEGE zone.cpu-shares	VALUE FLAG	ACTION	RECIPIENT
			privileged system 65.	1 – noi 5K max noi	1e 1e	-
2	zone02 Ø	DCPUシェア数の確認	alobal01# proti -p zope	cou-shares -i	zone zone02	
	globalC	1# prctl -n zone.cpu-shares -i zone <mark>zone02</mark>	zone: 23: zone02			DECIDIENT
	※ 実行編	吉果より、privileged 権限の VALUE の値を確認します。	zone.cpu-shares	VALUE FLAG	ACTION	RECIPIENT
			system 65.	5K max noi	ne ne	-
3.	サービスの	確認		n nools		
	globalC	1# svcs -a grep pools	disabled 13:03:25	svc:/system/po	ools/dynamic:default	t 🔤
	* svc:/	system/pools:default サービスが online になっていること。		vc./ system/ po		
4.	リソースプ	ールの確認	global01# poolstat -r a	ll n rid root	min may	
	global(# poolstat -r all aveize 値を確認します		et 1 pset_1	8 8 6 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	8 0.00 1.01
	in size∉	a、Size 値を確認します。 は現在のCPUの数であり、必ずmin値とmax値の間に設定されます。	O pool_default ps	et - i pset_d		8 0.00 0.02
(2)シェフ	ア数の動的 global(変更 11世 protl -n zone opu-shares -r -v 70 -i zone :	rone01			
	globalC	1# prctl -n zone.cpu-shares -r -v 30 -i zone	cone02			
1.	zone01 0	DCPUシェア数の確認	alobal01# prctl -n zone	cou-shares -i	zone zone01	
	globalC	1# prctl -n zone.cpu-shares -i zone <mark>zone01</mark>	zone: 22: zone01			RECIDIENT
	≫ zone0	1 が起動している必要があります。	zone.cpu-shares	70	ACTION	NEOFILINI
			system 65.	5K max nor	1e 1e	
2.	zone02 a	DCPUシェア数の確認 11年 prctl -p zone cpu-shares -i zone zone02	global01# prctl -n zone zone: 23: zone02	.cpu-shares -i	zone zone02	
	% zone(2 が起動している必要があります。	Zone.cpu-shares	VALUE FLAG	ACTION	RECIPIENT
			privileged system 65.5	30 – nor 5K max nor	1e 1e	1

						美 他日	2011年10月	
cpu-cap の設定	Ê				-			
1) zo <u>ne02 のリ</u>	ソース構成確認							
global(01# zonecfg -z zo	ne02 info capped-cpu						
※ 設定さ	されていない場合、何も	表示されません。						
2) zone のリソー	-ス構成情報の変更			;	zone02 の	リソース設	定に cpu-cap	設定を追加します
1. cpu-cap	数の新規設定 01# zonecfg -z zo	ne()?				F mamum .	のはには る	の (= = = = = = =
zonecf	g:zone02> add cap	ped-cpu			ハラメータ たいCPUの	「ncpu-」 個数を小数	の値には、そう 第2位まで指定	の zone に口有され 定可能です。
zonecf	g:zone02:capped-o	pu> set ncpus=4			(=1CPU१	を1%単位て	〔指定可能〕	
zonecf	g:zoneO2> exit	,pu∕ enu		Ļ				
※ 設定の	の変更は zone の次回起	動時に反映されます。						
2. 設定の確認	2							
global(01# zonecfg -z zo	neO2 info capped-cpu						
capped-	-cpu:							
設定の確	認(別パラメータ)				capped-cp zone cpu-	u バラメー an パラメ	・タを指定する 々が自動的に言	と、内部で 設定されます。
global(01# zonecfg -z zo	neO2 info rctl						
TULT.		-<省略>-			パラメータ として主=	「limit=」(の値は100を1	CPU分のリソース
	name: zone.cpu-	cap	tion=docs			C 11 6 9 .		
	varue (priv=pi	iviiegeu, iimit=400, ac	LION-deny)					
3. zone02	の再起動							
global(01# zlogin <mark>zone0</mark> 2	2'shutdown −y −g0 −i6	,	alohal01# prot	-n 70ne or		ne zone02	
4 700000	∩ onu_oon 對小速==		,	zone: 24: zone	02		AOTION	PEOIL
4. Zoneu 2 G	の cpu-cap 数の確認 01# prot! _p zopy	courcan -i zone zone	02	Zone.cpu-cap	EGE VA	LUE FLAG	ACTION	RECIPIEN
grobard		copuloap i zone zone	02	multiple geog	400	- den		-
0				system	4 29G	inf den	y V	_
<u> </u>				system	4.29G	inf den	y y	-
<u>3</u>) zone02 თ c	:pu-cap 数の動的変更			system	4.29G	inf den	y y	-
3) zone02 <i>Φ</i> c 1. <u>cpu-car</u>	cpu-cap 数の動的変更 b 数の変更			system	4.29G	inf den	y y	-
3) zone02 <i>σ</i> c 1. <u>cpu-car</u> global(spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i	zone zone02	system	4.29G	inf den	y y	-
3) zone02のc 1. cpu-car global(※ 再起	spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります	e.cpu-cap -r -v 300 -i °	zone zone02	system	4.29G		y y	-
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. <u>zone02 c</u>	spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認	e.cpu-cap -r -v 300 -i °	zone zone02	global01# prct	4.29G	inf den;	y ne zone02	-
3) zone02のc 1. <u>cpu-car</u> global(※ 再起 2. <u>zone02 c</u> global(spu-cap 数の動的変更 5 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid zo n	zone zone02	global01# prct	4.29G 4.29G	u-cap -i zo	ne zone02 ACTION	-
3) zone02 の c 1. <u>cpu-car</u> global(※ 再起 2. <u>zone02 c</u> global(spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid <mark>zo</mark> n	zone zone02	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap	4.29G 4.29G	u-cap -i zo	ne zone02 ACTION	RECIPIEN
3) zone02のc 1. <u>cpu-car</u> global(※ 再起] 2. zone02 c global(spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid <mark>zo</mark> n	zone zone02 ne02	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegec system	I -n zone.cp 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG inf den	ne zone02 ACTION	- RECIPIEN -
3) zone02 の c 1. cpu-cap global(※ 再起 2. zone02 c global(spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid zoi	zone zone02 ne02	globalO1# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegeo system	4.29G 4.29G 1 -n zone.cc 02 EGE VA 4.29G 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - den inf den	ne zone02 ACTION	- RECIPIEN - -
3) zone02 の c 1. <u>cpu-car</u> global(※ 再起] 2. <u>zone02 c</u> global(CPUUソースの目	cpu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone 助的移動	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid <mark>zo</mark> i	zone zone02	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegec system	4.29G 4.29G 4.29G 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny	ne zone02 ACTION y	- RECIPIEN - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. zone02 c global(CPUリソースの重 1. <u>Resouce</u>	spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid <mark>zo</mark> n	zone zone02 ne02 <	globalO1# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileged system	I -n zone.cp 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - den inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に	- RECIPIEN - - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(CPUリソースの重 1. Resouce global(global(spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid zon	zone zone02	global01# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileger system	4.29G 4.29G 02 EGE VA 4.29G 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - den inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - こ割り当たっている で下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(global(1. <u>Resouce</u> global(id poo 1 pool	pu-cap 数の動的変更 b 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# pcolの確認 D1# pcolstat -r a ol	e. cpu-cap -r -v 300 -i ° e. cpu-cap -i zoneid zon ill type rid rset pset 1 pset_1	zone zone02	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegec system	4.29G 4.29G 02 EGE VA 4.29G 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - こ割り当たっている で下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(global(1. Resouce global(id poo 1 poo 0 poo	pu-cap 数の動的変更 b 数の変更 D1# prctl -n zone 助後は元の値に戻ります <u>の cpu-cap 数の確認</u> D1# prctl -n zone 助的移動 Poolの確認 D1# poolstat -r a ol ol_1 ol_2 default	e.cpu-cap -r -v 300 -i e.cpu-cap -i zoneid zon tull type rid rset pset 1 pset_1 pset -1 pset_defau	zone zone02 ne02 <	global01# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cup-cap privilegec system	I -n zone.cp 02 EGE VA I <u>300</u> 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. zone02 c global(CPUUソースの重 1. Resouce global(id poc 0 poc	spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a ol_ D1_1 ol_default	e. cpu-cap -r -v 300 -i ° e. cpu-cap -i zoneid zon s. cpu-cap -i zoneid zon type rid rset pset 1 pset_1 pset -1 pset_defau	zone zone02	globalO1# prot system zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegeo system	I -n zone.cp 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - こ ご下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(1. Resouce global(id poc 1 poc 0 poc	spu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a D1 poolの確認 D1# poolstat -r a D1 default	<pre>e. cpu-cap -r -v 300 -i * * * * * * * * * * * * * * * * * * *</pre>	zone zone02 ne02	global01# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileger system	I -n zone.cp 02 EGE VA I 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - - - - - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(global(1. Resouce global(id poo 1 pool defa global(pu-cap 数の動的変更 b 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a ol D1# poolstat -r a ol_ D1_1 pl_default D1# poolstg -dc '	e.cpu-cap -r -v 300 -i ° e.cpu-cap -i zoneid zon set 1 pset_1 pset 1 pset_1 pset -1 pset_defau に変更 (8→1 へ変更) modify pset pset_defa	zone zone02 ne02 <	global01# prct system Zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileger system	I -n zone.cp 02 EGE VA I 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny	ne zone02 ACTION y y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - こ割り当たっている で下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(1. Resouce global(id pool 1 pool 2. pool defa global(3. pool 1 の	pu-cap 数の動的変更 o 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a D1# poolstat -r a D1 D1# poolstat -r a D1# poolstat -r	e. cpu-cap -r -v 300 -i 。 e. cpu-cap -i zoneid zo e. cpu-cap -i zoneid zo set 1 pset_1 pset 1 pset_1 pset -1 pset_defau に変更 (8→1 へ変更) modify pset pset_defa	zone zone02 ne02 <	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegec system	I -n zone.cc 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - - で下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(1. Resouce global(1 pool 1 pool 2. pool_defa global(3. pool_1 の global(spu-cap 数の動的変更 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone D1# prctl -n zone D1# poolstat -r a D1# poolstat -r a D1 - default D1# poolstat -r a D1 - default D1# poolstat -r a D1 - default	<pre>c. cpu-cap -r -v 300 -i cpu-cap -i zoneid zo cpu-cap -i zoneid zo cpu-cap -i zoneid zo</pre>	zone zone02 ne02 < It minint ult (uint pset int pset.max=1	global01# prot zone: 24: zone NAME PRIVIL zone-cap privilegec system	4.29G 4.29G 02 EGE VA 4.29G 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf den	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN こ こ 割り当たっている って下さい。
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(1. Resouce global(1. pool 1. pool 0 pool 2. pool defa global(3. pool 1 の global(cpu-cap 数の動的変更 o 数の変更 01# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 01# prctl -n zone の1# prctl -n zone 01# pool の確認 01# pool stat -r a ol_1 ol_2 01# pool cfg -dc ' > 最大CPU数を動的に変' 01# pool cfg -dc '	e. cpu-cap -r -v 300 -i ° e. cpu-cap -i zoneid zon se. cpu-cap -i zoneid zon set 1 pset_1 pset 1 pset_1 pset -1 pset_defau czgE(8→1 へgE) modify pset pset_defa E(8→12 へgE) modify pset pset_1 (u	zone zone02 ne02 < It minint ult (uint pset int pset.max=1	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileger system	I -n zone.cp 02 EGE VA 1 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し	- RECIPIEN - - こ - こ - こ - - - - - - - - - - - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(global(1. Resouce global(1. Resouce global(3. pool_1の global(4. CPUリソースの重	cpu-cap 数の動的変更 b 数の変更 01# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 01# prctl -n zone 01# pool o確認 01# pool o確認 01# pool of and 01_1 ol_default 01# pool cfg -dc ' D0# colofg -dc ' D1# pool cfg -dc '	<pre>e. cpu-cap -r -v 300 -i * * * * * * * * * * * * * * * * * * *</pre>	zone zone02 ne02 < It ministration ministratio ministratio ministration ministration ministration ministratio	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privileger system	I -n zone.cp 02 EGE VA I 300 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny Siz CP	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し 定した数のCF 終動します	- RECIPIEN - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
3) zone02 の c 1. cpu-car global(※ 再起] 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(global(id poc 1. Resouce global(id poc 2. pool defa global(3. pool 1 の global(4. CPUリンー global(ままい)か	cpu-cap 数の動的変更 o 数の変更 01# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 01# prctl -n zone 01# pool o確認 01# pool o確認 01# pool ofg -dc ' ol_default 01# pool cfg -dc ' 01# pool cfg -dc '	<pre>2. cpu-cap -r -v 300 -i * * * * * * * * * * * * * * * * * * *</pre>	zone zone02 ne02 < It min It ult (uint pset int pset.max=1 pset_default t	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone.cpu-cap privilegec system n max size L 8 8 8 (8 66K 8 (2) ' 2) ' 2) ' 0 pset_1'	4.29G 4.29G 02 EGE VA 4.29G	u-cap -i zo LUE FLAG - deny inf deny Siz CP	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し 定した数のCP 移動します。	- RECIPIEN - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
3) zone02 の c 1. cpu-cap global(※ 再起] 2. zone02 0 global(2. zone02 0 global(1. Resouce global(1. pool 1 pool 2. pool defa global(3. pool 1 の global(4. CPUリソースの重 global(あるいは、 global(cpu-cap 数の動的変更 b 数の変更 D1# prctl -n zone 動後は元の値に戻ります の cpu-cap 数の確認 D1# prctl -n zone 動約移動 Poolの確認 D1# poolstat -r a pol_default D1# poolstg -dc '	<pre>2. cpu-cap -r -v 300 -i 3. 2. cpu-cap -i zoneid zoi 3. 3. cpu-cap -i zoneid zoi 4. type rid rset 5. pset 1 pset_1 5. pset -1 pset_defau 4. cz更(8→1 へ安更) 5. modify pset pset_defa 5. (8→12 へ変更) 5. modify pset pset_1 (u 5. transfer 4 from pset pset_1) 5. transfer 4 from pset pset_1</pre>	zone zone02 ne02 < It ult (uint pset int pset.max=1 pset_default t 1 (cru 5)'	global01# prct zone: 24: zone NAME PRIVIL zone: privilegec system n max size t 8 8 8 (2 8 66K 8 (2 min=1)' 2)'	4.29G 4.29G CO EGE VA 4.29G Used Ioad 0.00 0.00 0.00 0.01	u-cap -i zo LUE FLAG - den inf den Siz CP	ne zone02 ACTION y eの値(実際に U数)を確認し 定した数のCF 移動します。	- RECIPIEN - - - - - - - - - - - - - - - - - - -

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	実施日	2011年10月
5. リソースプー global01 id pool 1 pool 0 pool	ールの状態を確認 # poolstat -r all type rid rset min max size used loa _1 pset 1 pset_1 8 12 12 0.00 0.0 _default pset -1 pset_default 1 66K 4 0.00 0.0	d 0 1 Size	eの値(実際に割り当たっている J数)を確認して下さい。
6. CPUJV-J global0	Rの移動 # poolcfg -dc 'transfer 4 from pset <mark>pset_1</mark> to pset_default '		
7. <u>09–27-</u> global0 id pool 1 pool 0 pool	ルの状態確認 # poolstat -r all type rid rset min max size used loa 1 pset 1 pset_1 8 12 8 0.00 0.0 default pset -1 pset_default 1 66K 8 0.00 0.0	d 0 siz 1 CP	eの値(実際に割り当たっている U数)を確認して下さい。

構築・運用手順書 Oracle Solaris コンテ	ナを使ってみよう			実施日	2011年10月		
2-4. Solaris コンテナのパッチ適用							
(1)サーバへのコンソール接続							
1. サーバのコンソールに接続します							
(2)パッチ適用前の準備							
1)zone の追加 1. 新規 zone の構成							
global01# zonecfg -z <mark>zone</mark>	03 create -a /export/zones_patch/z	one03					
2. <u>zone の組込み</u>							
global01# zoneadm -z <mark>zone</mark>	03 attach						
3. <u>zone03 の起動</u>				_			
global01# zoneadm -z zone	03 boot						
※ 初期設定は必要ありません。							
2)zo <u>ne の状態を表示</u>		global01# zonea	adm list -vc				
global01# zoneadm list -v	c 🧹	ID NAME	STATUS	PATH		BRAND II	o d
※ 全ての zone が起動している (run	nning) ことを確認します。	13 zone01	running /	export/zo	nes/zone01	native sha	red
		14 zone02 15 zone03	running / running /	export/zo export/zo	nes_cione/zonec nes_patch/zoneC	3 native	shared

構築·運用手	順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実施日	2011年10月	
3)適用	目されている	パッチの確認		-		
1.	global zone	のパッチを確認				
-	global01	# showrev -p grep XXXXX-XX				
	※ 適用する	5ハッチが適用されていない(何も出力されない)ことを確認します。				
2.	non-global	zone のパッチを確認				
	global01 global01	# zlogin zoneUl showrev -p grep XXXXXX-XX # zlogin zoneO2 'showrev -p grep XXXXXX-XX				
	global01	# zlogin zoneO3 'showrev -p grep XXXXXX-XX				
_	※ 各 zone	にXXXXXX-XXのパッチが適用されていない(何も出力されない)	ことを確認します。			
4) glob	bal zone を	シングルユーザモードで起動します。				
1. 1	全ての zone global01	·を停止 # zlogin zone01 'shutdown -v -g0 -i5'				
	global01	# zlogin zone02 'shutdown -y -g0 -i5'				
	global01	# zlogin <mark>zone03</mark> 'shutdown −y −g0 −i5'				
2. z	one の状態	を表示	global01# zoneadm list	-vc		
	global01	# zoneadm list -vc	ID NAME STATUS	PATH	BRAND	IP bared
L	· ※ 全ての	zone が停止している (installed) ことを確認します。	- zone01 installe	d /export/zor	nes/zone01 native sha	ared
3 ()RP への 救	Ŧ	– zone02 installe – zone03 installe	d /export/zor d /export/zor	nes_clone/zone02 native nes_patch/zone03 native	shared shared
	global01	# shutdown -y -g0 -i0			-	
	-					
4. <u>c</u>	lobal zone	をシングルユーザモードで起動				
	{0} ok b	oot -s				
5 1	コーカルファ	イルシステムのマウント				
0.1	global01	# mountall -1				
	-	** 				
6. र	マウントポイ	ントの確認	global01# df -h	ノブ 体田这么	使用可能 容易 マウントダ	_
	global01	# dt -h	/dev/dsk/c0d0s0	5.9G 4.6G	・使用可能 谷里 マワンドカ 1.2G 80% /	6
	※ 全ての.	7ァイルシステムかマワントされていることを確認します。	/dev/dsk/c0d1s0	- 7.9G 4.1G	<省略>- 3.7G 53% /zone tar list	
			/dev/dsk/c0d3s0	5.9G 3.9G	1.9G 67% /export/zone	s_clone
			/dev/dsk/c0d2s0 /dev/dsk/c0d4s0	5.9G 3.9G	1.9G 67% /export/zone	s s_patch
7. <u>-</u>	リソースプー	ルサービスの状態確認	global01# svcs -a gre	p pools		
	global01	# svcs −a grep pools	disabled 16:02:31 disabled 16:02:37 st	svc:/system/p vc:/system/po	ools:default ols/dynamic:default	
L	※ リソース	プールサービスが停止状態(disabled)であることを確認します。				
0 1	トノーマプ	ルサービスの記動				
0. 1	global01	# sycadm enable syc:/system/pools.default				
Ľ	·····································	シューザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動されない	いため手動で起動する必要があります。			
<u> </u>	N/_7-					
9. 1	00-20-	ルリービスの状態確認 # svos _a gran pools	global01# svcs -a gre	p pools svc:/svstem/n	ools/dynamic:default	
	sionaiui × 11/1-7	# SVOS a gitp poors プールサービスが記動状能 (online) でちスミンを確認します	online 16:03:38 st	rc:/system/po	ols:default	
	~ 7/-*	ィー・ティー こへが、どういいは、しいいいに、しのるここで唯能します。				
			global01# zoneadm list	-vc		
10 <u>.</u>	zone の状	態を確認	ID NAME STATUS O global running	PATH /	BRAND native st	IP hared
	global01	# zoneadm list -vc	- zone01 installe	d /export/zor	nes/zone01 native sha	ared
	※ 全ての	zone が停止している (installed) ことを確認します。	- zone02 installe	d /export/zor	nes_cione/zone02 native nes_patch/zone03 native	shared

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実施日	2011年10月
(3)並列パッチ適用	の準備		-	
1)並列実行数 1. <u>プールの</u> 研	D設定 全認	global01# poolstat -r	all	
global	D1# poolstat -r all	id pool typ 1 pool_1 ps	pe rid rset set 1 pset_1	min max size used load 8 8 8 0.00 0.00
* pool_	default のCPU数(表示結果の"size"の値)を確認します。	0 pool_default ps	set -1 pset_defa	ault 8 66K 8 0.00 0.02
2. 並列実行	数の設定			
global # iden	01# vi /etc/patch/pdo.conf t ~@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI″			
# # Copy # Use	right 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights rese is subject to license terms.	rved.		
#	/ \\$ b\$\			
# num_	oroc= <num_of_processes></num_of_processes>			
# # wher	9:			
# # num_ #	proc is the key for this record. It specifies to fork that will be used by the patchin	the number of proces g utilities	ss	
# =	the standard delimiter used for parsing	the record		
# # <num< th=""><td>_of_processes> the number of processes to fork.</td><td>The actual number of</td><td>f</td><td></td></num<>	_of_processes> the number of processes to fork.	The actual number of	f	
#	processes to fork is determined by the t in 'Factors determining processes to be	hree factors mentione forked' in the man pa	ed age	
<u>"</u>	of pdo. conf (4)	one の環境数を	-0-	
"num_pr	pc=3 # default 指定します。			
(4)コンテナ環境の	亚91ハッチ·週用	globalO1# timex patchado	d XXXXXX-XX - <i< th=""><th>省略>-</th></i<>	省略>-
1) パッチの適用	l	Patching zone zone01		
global	D1# timex patchadd XXXXX-XX	Checking installed patche Executing prepatch script	S	
* ume)	コマンドを使用してハッテの適用時间で計測します。	Installing patch packages.		
		Patch XXXXXX-XX has be See /var/sadm/patch/X Executing postpatch scrip	een successfully XXXXX-XX /log f ot	installed. or details
		Patch packages installed: SUNWxxx		zone へのパッチ
		Done!		適用のログが
		Patching zone zone03	-<省	略>- (「及に出力」
		Checking installed patche Executing prepatch script.	S	全ての zone に 同時にパッチを 適用していること
		Patch XXXXXX-XX has be	 een successfully	が分かります。 installed.
		See /var/sadm/patch/X Executing postpatch scrip	XXXXX-XX/log f ot	ior details
		real 2:22.74 user 1:07.75 sys 37.90)
		globalO1#		
			コマン この場	ド実行の経過時間 拾、約2分22秒です。

構築・運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実施日	2011年10月	
2) 適用済みパッ	- チの確認		-		
1 zoneの状i	能を表示	global01# zonead	m list -vc		
global0	1# zoneadm list -vc		STATUS PATH		BRAND IP
※ 全ての)zone が停止している (installed) ことを確認します。	- zone01	nstalled /export/z	ones/zone01 na	ative shared
2. global zon	e の再起動	- zone02 - zone03	n stalled /export/zo nstalled /export/zo	ones_clone/zone02 ones_patch/zone03	native shared
globalO	1# shutdown -y -g0 -i6				
2 zono Φ₽	香h				
global0	≢/ 1# zoneadm -z zone01 boot				
globalO	1# zoneadm -z zone02 boot				
grobaro	1# zoneadili -2 Zoneos boot				
4. <u>zone の状</u>	態を表示	global01# zonead	m list -vc		
globalO	1# zoneadm list -vc	ID NAME ST	ATUS PATH Inning /	BR nati	AND IP ve shared
※ 全ての) zone が起動している (running) ことを確認します。	1 zone01 ru 2 zone02 ru	inning /export/zo	nes/zone01 nati nes clone/zone02	ve shared native shared
		3 zone03 ru	nning /export/zo	nes_patch/zone03	native shared
5. global zor	le のバッチを確認 1# showrov - p grop YYYYY-YY	global01# showrey Patch: XXXXXX-X	v −p∣grep XXXXXX X Obsoletes: YYYYY	-XX Y-YY. ZZZZZZ-ZZ. V	VVVVV-VV Requires:
	T# STOWLEV - P glep ハハハハハ ハハ XX-XXのパッチが適用されていることを確認します。	Incompatibles: Page	ckages: SUNWxxx		
C and she					
6. non-globa	alzone のハウチを確認 11# zlogin zoneO1 'showrey -p grep XXXXXX->	(X' global01# zlogin z	one01 'showrev -p	grep XXXXXX-XX'	WWW_W Requires:
globalO	1# zlogin zone02 'showrev -p grep XXXXXX-	X Incompatibles: Par	ckages: SUNWxxx	1 11, <i>222222 22</i> , V	www w nequires.
	Ⅵ冊 ZIOgIN ZONEU3 SNOWYEV ─p grep XXXXX/─> XY-YYのパッチが適用されていることを確認します	global01# zlogin z	one02 'showrev -p	grep XXXXXX-XX'	
* ****	へん へんりパンプ が 通用 これにく うしこう 理師のひよう。	Patch: XXXXXX-X	Cobsoletes: YYYYY	Y-YY, ZZZZZZZZZ, V	VVVVV-VV Requires:
		global01# zlogin z	ona02 'showrov -n		
		Patch: XXXXXX-X	Consoletes: YYYYY	Y-YY, ZZZZZZ-ZZ, V	VVVVV-VV Requires:
		incompatibles. Fa			

<pre>(5) BHL&/Y>9HB 1) plobal zone &>>7PA-YE-KEBT 1. <u>cone off</u> global 011 # 2 log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # 2 log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # z log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # z log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # z log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # z log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # z log in zoned01 'shutdown -y -g0 - 15' global 011 # zonedmi list -vc # global 011 # dint -n # zoned0 * maked / scoot / zoned/ zet## and / zoned0 * make zet## zoned0 * maked / scoot / zoned0 * make zet## zoned0 * make zet## zoned0 * maked / scoot / zoned0 * maked / zoned0 * make zet## zoned0 * maked / zoned0 * maked / zoned0 * make zet## zoned0 * maked / zoned0 * zoned0 * maked / zoned0 * zoned0</pre>				天 肔日	-				Oracle Solaris コンテナを使ってみよう	築・運用手順書
<pre>1) slobi zone 62>70+2-47E-FKI\$F1 1</pre>					-					(5)適用したパッチの
global01# zlogin zoneQ2 shutdom -y -g0 -15' global01# zlogin zoneQ2 shutdom -y -g0 -15' global01# zlogin zoneQ2 2. zone 0x&get&= global01# zlogin zoneQ2 bulke consential -ve mailed / zoneQ2 global01# zlogin zoneQ2 native plobal0 3. GDP ~0BFT global01# zlogin zoneQ2 native zoneQ2 installed / zoneZ plobal0 3. GDP ~0BFT zoneQ2 installed / zoneZ native zoneQ2 <									をシングルユーザモードに移行 ル	1)global zone 3 1 zone の信
2. cone odd@e&bx global01# zoneadm ist -vc global01# zoneadm ist -vc global01# zoneadm ist -vc 8. @c70 zone of #gLtCts@instaled_Z2&@@gLgst. 0 alobal and the size of cone of the size of the									1# zlogin zone01 'shutdown -y -g0 -i5' 1# zlogin zone02 'shutdown -y -g0 -i5' 1# zlogin zone03 'shutdown -y -g0 -i5'	global0 global0 global0
global01# zoneadm list -vc D NAME STATUS PATH BRAND 0 global01# zoneadm list -vc D NAME Status i running / expont/zones/zone01 native i - zone01 installed / expont/zones/zone02 native - zone03 installed / expont/zones/zone02 native - zone03 installed / expont/zones/zone20 native - zone03 installed / expont/zones/zone02 native - zone04 native - zone04 installed / expont/zones/zone20 native - zone04 installed / expont/zone3 native - zone3 installed / expont/zone					st -vc	oneadm list	global01# zo		態を表示	2. zone の状
** 全での zone が停止している (installed) ことを確認します. - zone 01 installed / sone 01 installed / sone 02 installed / sone 02 installed / sone 02 installed / sone 03 installed / sone 04 / sone	IP shared	BRAND IP		PATH	JS P/ a /	STATUS		\langle	1# zoneadm list -vc	globalC
3. OBP <>>> OBFG - Direct a installed /vaper/zener_patch/zener_aller/zener_patch/zener_aller/zener_patch/zener_aller/zener/zene	hared	native shared	es/zone01 n	export/zoi	ed /ex	installe	- zone01) zone が停止している (installed) ことを確認します。	※ 全ての
global01# shutdown - y - g0 - 10 4. シングルユーダモードでの超過 [0] ok boot -s 5. Dーカルファイルシステムのマウント global01# df -h global01# df -h メ* 全てのファイルシステムがマウントされていることを確認します. /dev/dsk/codss0 /dsbied	e shared	native sha	es_clone/zone02 es_patch/zone03	export/zoi	ed /ex	installe	- zone02		\$ 行	3. OBP への
 →ングルユーヤモーヤでの起動 [0] ok boot -s [0] ok boot -s [0] ok boot -s [0] ok boot -s [] obal01# df -h // イン 使用決み使用可能 容量 マンン // イン // イン									1# shutdown -y -g0 -i0	globalC
[0] ok boot -s 5. ローカルファイルシステムのマウント global01# mountal1 =1 6. マウントポイントの確認 global01# df -h * 全てのファイルシステムがマウントされていることを確認します。 アイルシステム * 全てのファイルシステムがマウントされていることを確認します。 /dev/dsk/codaso 5.90 4.66 1.20 80% / /dev/dsk/codaso /dev/dsk/codaso 5.90 4.66 1.20 80% / /dev/dsk/codaso /dev/dsk/codaso 5.90 4.66 1.20 80% / /dev/dsk/codaso /dev/dsk/codaso 5.90 3.86 1.96 6.7% /export// /dev/dsk/codaso /dev/dsk/codaso 5.90 3.96 1.96 6.7% /export// /dev/dsk/codaso									ーザモードでの起動	4. <u>シングルユ</u>
 5. ローカルファイルシステムのマウント global01# mountal1 -1 6. マウントポイントの確認 global01# df -h アイルシステム サイズ使用済み使用可能容量、マウン /dev/dsk/codoso 5.96 4.66 1.26 80% / /dev/dsk/codoso 5.96 4.66 7% /export/ /dev/dsk/codoso 5.96 3.96 1.96 67% /export/ /dev/dsk/codoso 5									boot -s	{0} ok
global01# mountal1 -1 6. マウントポイントの確認 global01# df -h * 全てのファイルシステム サイズ 使用済み 使用可能 容量、マウン /dev/ds/codos0 5.9G 4.6G 1.2G 80% / - (名略>- /dev/ds/codos0 5.9G 4.6G 1.2G 80% / - (名略>- /dev/ds/codos0 5.9G 4.6G 1.2G 80% / - (名略>- /dev/ds/codos0 5.9G 3.9G 1.9G 67% /export// /dev/ds/codos0 5.9G 4.6G 7.9G 6.7% /export// /dev/ds/codos0 5.9G 4.6G 7.9G 6.									ァイルシステムのマウント	5. <u>ローカルフ</u>
6. マウントポイントの確認 global01# df -h ※ 全てのファイルシステムがマウントされていることを確認します。 global01# df -h ファイルシステム サイズ 使用済み 使用可能 容量 マウン /dev/dsk/c003s0 596 3.96 4.66 1.26 80% / /dev/dsk/c003s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c003s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c003s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c002s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 67% /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 1.96 67% /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 3.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 6.76 /sport// /dev/dsk/c004s0 5.96 6.76 /sport// /de									1# mountall -I	globalC
 c. マリントネイントの確認 global01# df -h										
$global01#$ dl =1 $\gamma \gamma \lambda \lambda \zeta \zeta \Delta$ $\gamma \lambda \zeta L$ $\gamma \lambda \zeta L$ $\gamma \lambda \zeta L$ $\gamma \zeta $						-h	global01# df		<u>「ントの確認</u> 1# Jf b	6. マワントホー
** 生くのが パルノウ 2 がくり / Circle activation -<省略>- ** 生くのが パルノウ 2 がくり / Circle activation -<省略>- /dev/dsk/c0d1s0 7.9G 4.1G 3.7G 53% / 2xport/; /dev/dsk/c0d2s0 5.9G 3.9G 1.9G 67% / export/; /dev/dsk/c0d4s0 5.9G 3.9G 1.9G 67% / export/; /dev/dsk/cod4s0 16:18:07 svc: /system/pools/dynamic:default /dev/dsk/cod4s0 5.9G 3.9G 1.9G 67% / export/; /dev	′卜先	マワント先 /	使用可能 容量 1.2G 80% /	く使用済。)G 4.6G	サイス 5.90	くテム 1 0d0s0	イファイルシス /dev/dsk/c		# U −	
7. リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools disabled 16:18:07 svc:/system/pools:default disabled 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default 8. リソースブールサービスの起動 global01# svcs -a grep pools x リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools x リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools x リソースブールサービスが超動状態 (online) であることを確認します。	_list zones_clone zones zones_patch	/zone_tar_list /export/zones_ /export/zones /export/zones_	<省略>- 3.7G 53% / 1.9G 67% / 1.9G 67% / 1.9G 67% /	9G 4.1G 9G 3.9G 9G 3.9G 9G 3.9G	7.90 5.90 5.90	0d1s0 0d3s0	/dev/dsk/c	Ň	ックアードレンスクムが、マントで46CVでしてで1000より。	* ±()
global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools 16:18:07 svc:/system/pools:default disabled 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default global01# svcs -a grep pools 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default svjv-zj-uv-Ezozabb global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default * シングルユーザモードでは、リソースブールのサービスは自動で起動されないため手動で起動する必要があります。 9. リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default * リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools * リソースブールサービスが超動状態 (online) であることを確認します。 16:18:58 svc:/system/pools:default					5.90	0d2s0 0d4s0	/dev/dsk/c /dev/dsk/c /dev/dsk/c			
※ リソースブールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認します。 10:10:07 stc:/system/pools/dynamic:default 8. リソースブールサービスの起動 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default ※ シングルユーザモードでは、リソースブールのサービスは自動で起動されないため手動で起動する必要があります。 9. リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default					5.90	0d2s0 0d4s0	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci		-ルサービスの状態確認	7. リソースプ
8. リソースブールサービスの起動 global01# svcadm enable svc:/system/pools:default ※ シングルユーザモードでは、リソースブールのサービスは自動で起動されないため手動で起動する必要があります。 9. リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools ※ リソースプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。 global01# svcs -a grep pools 16:18:13 svc:/system/pools:default 16:18:58 svc:/system/pools:default		ault	vole:default	ols (system/r	5.90	0d2s0 0d4s0 /cs -a gro	/dev/dsk/cd /dev/dsk/cd /dev/dsk/cd global01# sv		<mark>-ルサービスの状態確認</mark> 1# svcs −a grep pools	7. リソースプ global(
 8. リソースブールサービスの起動 global01# svcadm enable svc:/system/pools:default ※ シングルユーザモードでは、リソースブールのサービスは自動で起動されないため手動で起動する必要があります。 9. リソースブールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools global01# svcs -a grep pools isabled 16:18:13 svc:/system/pools:default 16:18:58 svc:/system/pools:default 16:18:18 svc:/system/pools:de			ools:default ols/dynamic:defau	ools ′system/p system/p	5.90 Irep poo 7 svc:/s svc:/s	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr/ 16:18:07 16:18:13 :	/dev/dsk/cd /dev/dsk/cd /dev/dsk/cd global01# sv disabled disabled	<u>ج</u> ¢‡†.	<mark>-ルサービスの状態確認</mark> 1# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま	7. <u>リソースプ</u> global(※ リソー
global01# svcalin enable svc./system/pools.default ※ シングルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動されないため手動で起動する必要があります。 9. リソースプールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools 3. リソースプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。 global01# svcs -a grep pools 16:18:58 svc:/system/pools/dynamic:default			ools:default ols/dynamic:defa	ools ′system/¢ system/p	5.90 Irep poo 7 svc:/s svc:/s	0d2s0 0d4s0 /cs -a gru 16:18:07 16:18:13 s	/dev/dsk/c /dev/dsk/c /dev/dsk/c global01# sv disabled disabled		-ルサービスの状態確認 1# svcs −a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま	7. <u>リソースプ</u> global(※ リソー
9. リソースプールサービスの状態確認 global01# svcs -a grep pools ※ リソースプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。 global01# svcs -a grep pools 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default 16:18:58 svc:/system/pools:default 16:18:58 svc:/system/pools:default			ools:default ols/dynamic:defa	ools 'system/p system/p	5.90 Irep poo 7 svc:/s svc:/s	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr 16:18:07 16:18:13 s	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled		-ルサービスの状態確認 11# svcs -a │ grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま -ルサービスの起動	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ
9. サノースプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。 global 01# svcs -a grep pools disabled 16:18:13 svc:/system/pools/dynamic:default online 16:18:58 svc:/system/pools/dynamic:default online 16:18:58 svc:/system/pools/dynamic:default online 16:18:58 svc:/system/pools/dynamic:default online 16:18:58 svc:/system/pools/dynamic:default			ools:default ols/dynamic:defa 	ools 'system/p system/p	5.90 prep poo 7 svc:/s svc:/s	0d2s0 0d4s0 //cs -a gru 16:18:07 16:18:13 :	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled	、ます。 ult カカされないため手動	ールサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リノースプールのサービスは自動で起動	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング
** リソースプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します。			ools:default ols/dynamic:defa	ools /system/p system/p	5.90 rep poo 7 svc:/s svc:/s *	0d2s0 0d4s0 rcs -a grr 16:18:07 16:18:13 : 16:18:13 :	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled	くます。 います。 ult かされないため手動	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動	7. <u>リソースプ</u> global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング
		2016	ools:default ols/dynamic:defa	ools /system/p system/p	5.90 rep poo 7 svc:/s svc:/s * .	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr 16:18:07 16:18:13 : があります /cs -a gr	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled	ノます。 ult 動されないため手動	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング 9. リソースプ
		ault	ools:default ols/dynamic:defa ols/dynamic:defa ols:default	pols /system/p system/p pols /system/p	5.90 7 svc:/s svc:/s *. *.	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr 16:18:07 16:18:13 s /// あります /cs -a gr 16:18:13 16:18:58 s	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled global01# sv disabled online	メます。 ult かされないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します	7. <u>リソースプ</u> global(※ リソー 8. <u>リソースプ</u> global(※ シング 9. <u>リソースプ</u> global(※ リソー
		ault	ools:default ols/dynamic:defa ols/dynamic:defa ols:default	pols //system/p //p //p //p //p //p //system/p //p	5.90 rep poo 7 svc:/s svc:/s 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0 5.0	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr 16:18:07 16:18:13 : /があります /cs -a gr 16:18:13 16:18:58 :	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled global01# sv disabled online	・ます。 ult がされないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング 9. リソースプ global(※ リソー
10. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ID NAME STATUS PATH RDAND		ault	ools:default ols/dynamic:defa ools/dynamic:defa ols:default	pols /system/p system/p /system/p /system/p	5.90 rep poo 7 svc:/s svc:/s 5 . 7	0d2s0 0d4s0 rcs -a gr 16:18:07 16:18:13 : たがあります rcs -a gr 16:18:13 16:18:58 s	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled global01# sv disabled online	メます。 ult 助されないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態(disabled)であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態(online)であることを確認します	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング 9. リソースプ・ global(※ リソー
giobalUI# zoneadm IIST -VC Oglobal running / Distance status	ID	ault	ools:default ols/dynamic:defa ols/dynamic:defa ols:default	pols /system/p system/p pols /system/p	5.90 rep poo 7 svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s	0d2s0 0d4s0 /cs -a gr 16:18:07 16:18:13 (////////////////////////////////////	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dsabled disabled disabled global01# sv disabled online 1	、ます。 ult がされないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します く態を表示	7. リソースプ global(※ リソー 8. リソースプ global(※ シング 9. リソースプ global(※ リソー 10. zone の者
※ 主い zone か 学正している (Installed) ここで確認します。 - zone01 installed / export/zones,clone/zone02 native - zone03 installed / export/zones_patch/zone03 native	IP shared	ault BRAND IP native shared	ools:default ols/dynamic:defa cols/dynamic:defa ols:default	pols / system / p system / p pols / system / p pols PATH	5.90 Irep poo 7 svc:/s svc:/s 5. svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s y st -vc JS Pl g /	0d2s0 0d4s0 /cs -a gri 16:18:07 16:18:13 : たがあります /cs -a gri 16:18:13 16:18:58 : Doneadm lisi STATU running	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled online global01# zc D NAME 0 global	、ます。 ult 功されないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま -ルサービスの起動 11# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リソースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します (臓を表示 1# zoneadm list -vc コロック が使ましまり ことも (地) ようにも (model) さんも (model) さんも (model) また	7. <u>177-27</u> global(* 177- global(* 520 9. <u>177-27</u> global(* 177- global(* 177-
	IP shared hared e shared e shared	ault BRAND IP native shared native shared native shared native sha	ools:default ols/dynamic:defa ols:default es/zone01 n es_clone/zone02 es_patch/zone03	pols /system/p system/p pols /system/p PATH export/zol export/zol export/zol	s.gc rep poo 7 svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s svc:/s y svc:/s y svc:/svc:/s sv	0d2s0 0d4s0 rcs -a gr 16:18:07 16:18:13 : 16:18:13 : rcs -a gr 16:18:13 16:18:58 : STATU: running Installe installe installe	/dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci /dev/dsk/ci global01# sv disabled disabled disabled online global01# zc lip NAME 0 global - zone01 - zone02 - zone03	ult 動されないため手動 す。	-ルサービスの状態確認 11# svcs -a grep pools スプールサービスが停止状態 (disabled) であることを確認しま -ルサービスの起動 11# svcadm enable svc:/system/pools:defau ルユーザモードでは、リゾースプールのサービスは自動で起動 -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep pools スプールサービスが起動状態 (online) であることを確認します (糖を表示 1# zoneadm list -vc zone が停止している (installed) ことを確認します。	 フリソースプ・ global(※ リソー リソースプ・ global(※ シング リソースプ・ global(※ シング リソースプ・ global(※ リソー エone のま global(※ 全ての

) パッチの削除 global01# patchrm XXXXX-XX ※ pdo.conf が定義されていると、並列にパッチの削除がおこなわれます。処理時間は、10分程で終了します。) 適用されているパッチの確認 1. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が停止している (installed) ことを確認します。 2. global zone の再起動 global01# shutdown -y -g0 -i6 3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が認知している (running) ことを確認します。 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が認知している (running) ことを確認します。	vc PATH //export/zor /export/zor	ies/zone01 ies_clone/zone02	BRAND IP native shared native sha native sha
global01# patchrm XXXXX-XX ※ pdo.conf が定義されていると、並列にパッチの削除がおこなわれます。処理時間は、10分程で終了します。) 適用されているパッチの確認 1. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc 以 global zone が停止している (installed) ことを確認します。 2. global zone の再起動 global01# shutdown -y -g0 -i6 3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot global01# zoneadm -z zone03 boot global01# zoneadm -z zone03 global01# zoneadm -z zone03 boot global01# zoneadm list -vc % 全ての zone が寝範している (running) ことを確認します。	vc PATH /export/zor /export/zor	nes/zone01 nes_clone/zone02	BRAND IP native shared native sha native sha
 ※ pdo.conf が定義されていると、並列にバッチの削除がおこなわれます。処理時間は、10分程で終了します。) 適用されているバッチの確認 zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc	VC PATH //export/zor /export/zor	ies/zone01 i ies_clone/zone02	BRAND IP native shared native sha native sha
) 適用されているパッチの確認 1. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が停止している (installed) ことを確認します。 2. global zone の再起動 global01# zoneadm -y -g0 - i6 3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が能動している (running) ことを確認します。 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が能動している (running) ことを確認します。 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が能動している (running) ことを確認します。	vc PATH / vexport/zor / export/zor	nes/zone01 nes_clone/zone02	BRAND IP native shared native shared native sha
 zone の状態を表示	vc PATH //export/zor /export/zor	nes/zone01 nes_clone/zone02	BRAND IP native shared native shared native sha
global01# zoneadm list -vc ID NAME STATUS ※ 全ての zone が停止している (installed) ことを確認します。 - zone01 - installed 2. global zone の再起動 - zone01 - installed global01# shutdown -y -g0 - i6 - zone02 Installed 3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot - zone02 boot Installed global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot - zone03 boot - zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc - zone01 list -vc - zone01 list -vc - zone01 list -vc ※ 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。 - zone01 list -vc - zone01 list -vc - zone01 list -vc	PATH //export/zor /export/zor	nes/zone01 n nes_clone/zone02	BRAND IP native shared native shared
 ※ 全ての zone が停止している (installed) ことを確認します。 global zone の再起動 global 2one の再起動 global 01# shutdown -y -g0 - i6 3. zone の起動 global 01# zoneadm -z zone01 boot global 01# zoneadm -z zone02 boot global 01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global 01# zoneadm list -vc jlobal 01# zoneadm list -vc jlobal 01# zoneadm list -vc	/export/zor /export/zor	nes/zone01 nes_clone/zone02	lative shared native shared
 2. global zone の再起動 global 01# shutdown -y -g0 -i6 global 01# shutdown -y -g0 -i6 zone の起動 global 01# zoneadm -z zone01 boot global 01# zoneadm -z zone02 boot global 01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global 01# zoneadm list -vc global 01# zoneadm list -vc w 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。 global 10# zoneadm list -vc w 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。	/export/zon	les_clone/zone02	native sha
global01# shutdown -y -g0 -i6 3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。	VC		
3. zone の起動 global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。	VC		
global01# zoneadm -z zone01 boot global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ** 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。	VC		
global01# zoneadm -z zone02 boot global01# zoneadm -z zone03 boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。	VC		
global01# Zonodam Z Zonodo boot 4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone がお動している (running) ことを確認します。	VC		
4. zone の状態を表示 global01# zoneadm list -vc ※ 全ての zone が起動している (running) ことを確認します。 りのという (running) ことを確認します。			
gioDaiUI# Zoneadm IIST -VC の UNAME STATUS ※ 全ての zone が起動している (running) ごとを確認します。 1 zone01 running			
※ キャップ 2018 から割している (1010109) ここで解説します。 17006()1 「100000	/		native share
2 zone02 running	/export/zoi /export/zoi	nes/zone01 nes_clone/zone02	native snared native sh
5. 削除したglobal zone のパッチを確認			
global01# showrev -p grep XXXXXX-XX			
>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>			
global01# zlogin zone01 'showrev -p grep XXXXX-XX' global01# zlogin zone02 'showrev -p grep XXXXX-XX' global01# zlogin zone03 'showrev -p grep XXXXX-XX'			
g1002101# 210g11 201603 S10W1 EV - p - g1 EP / ////// // // // // // // // // // //			
7 並列実行数の設定			
global01# vi /atc/match/mda_conf			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI"			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems Inc. All rights reserved			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms.			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>-			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>- # num_proc= <num_of_processes> #</num_of_processes>			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>- # num_proc= <num_of_processes> # # where:</num_of_processes>			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>- # num_proc= <num_of_processes> # # where: # # num_proc</num_of_processes>			
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>- # num_proc= <num_of_processes> # # where: # # num_proc is the key for this record. It specifies the number of process # to fork that will be used by the patching utilities</num_of_processes>			
<pre>global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. #</pre>			
<pre>global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. #</pre>			
<pre>global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. #</pre>			
<pre>global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. #</pre>	3		
global01# vi /etc/patch/pdo.conf # ident "@(#)pdo.conf 1.1 09/05/20 SMI" # Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. # Use is subject to license terms. # -<省略>- # num_proc= <num_of_processes> # where: # num_proc is the key for this record. It specifies the number of process # to fork that will be used by the patching utilities # = the standard delimiter used for parsing the record # <num_of_processes> the number of processes to fork. The actual number of # coresses to fork is determined by the three factors mentioned # in 'Factors determining processes to be forked' in the man page # of pdo.conf(4) # zerosal # dofoult</num_of_processes></num_of_processes>			

築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを	使ってみよう			关心口	2011年10月	
(6)パッチ適用前の	- 準備(従来の方法)				-	-	-
1) global zone ?	シングルユーザモードへ移行						
1 0/5	.L.						
1. zone の停	l <u>⊏</u> 1# zlogin zone01 'shu	itdown -v -g0 -i5'					
globalO	1# zlogin zone02 'shu	itdown -y -g0 -i5'					
globalO	1# zlogin zone03 'shu	ıtdown −y −g0 −i5'					
2. <u>zone の状</u>	態を表示		global	01# zoneadm lis	t-vc		
globalO	1# zoneadm list -vc			ME STATU obal runnin	S PATH g /		BRAND IP native shared
※ 全ての	ozone が停止している (installe	ed)ことを確認します。	- zo	ne01 insta	ed /export/zor	nes/zone01	native shared
3. <u>OBP への</u> 種	\$行		- zo	ne03 insta	ed /export/zor	nes_patch/zone	03 native shared
globalO	1# shutdown -y -g0 -i	0					
4. シングルユ	ーザモードでの起動						
{0} ok	boot -s						
	1# mountall -1						
groburo							
6. <mark>マウントボ・</mark>	イントの確認		global	01# df -h			
6. マウントボー global0	(ントの確認 1# df -h		global 7 7 1 (dev/	01# df -h 'ルシステム dsk/c0d0s0	サイズ 使用済み 59G 46G	• 使用可能 容量 1 2G 80%	マウント先 /
6. マウントボー global0 ※ 全ての	<u>(ントの確認</u> 1# df -h マァイルシステムがマウントされ	ていることを確認します。	global 7 7 1 /dev/	01# df -h 'ルシステム dsk/c0d0s0	サイズ 使用済み 5.9G 4.6G 	◆使用可能容量 1.2G 80% <<省略>	マウント先 /
6. マウントボ- global0 ※ 全ての	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ	ていることを確認します。	globall 7 r 1 /dev/ /dev/ /dev/	D1# df -h ルシステム dsk/cOdOsO dsk/cOd1sO dsk/cOd3sO	サイズ使用済み 5.9G 4.6G - 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G	▲ 使用可能 容量 1.2G 80% -<省部> 3.7G 53% 1.9G 67%	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione
6. マウントボ- global0 ※ 全ての	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ	ていることを確認します。	global 7 r -1 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	01# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d1s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0	サイズ 使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	▲ 使用可能 容量 1.2G 80% -<省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67%	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch
6. マウントボー global0 ※ 全ての	<u>(ントの確認</u> 1# df -h ファイルシステムがマウントされ	ていることを確認します。	global 771 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	D1# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0	サイズ使用済み 5.9G 4.6G - 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	◆ 使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67%	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione /export/zones /export/zones_patch
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースプ-	<u>(ントの確認</u> 1# df -h ファイルシステムがマウントされ	ていることを確認します。	global 7 r 4 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	D1# df -h ルシステム dsk/cOdOsO dsk/cOd1sO dsk/cOd2sO dsk/cOd2sO dsk/cOd4sO	サイズ 使用済み 5.9G 4.6G 	● 使用可能 容量 1.2G 80% <省節> 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67%	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones /export/zones_patch
6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. <u>リソースプ-</u> global0	(ントの確認 1# df -h マテイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poo	ていることを確認します。	global 7 r -1 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	01# df -h <i>ルシステム</i> dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g dd 16:33:3	サイズ使用済み 5.9G 4.6G - 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	◆ 使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% wools:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch
6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースプー global0 ※ リソー:	<u>(ントの確認</u> 1# df -h ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poo スプールサービスが停止状態(d	ていることを確認します。) s isable) であることを確認します。	globald 7 7 1 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ globald disable disable	D1# df -h ルシステム dsk/cOd0s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:3 ed 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G - 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	◆ 使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% bools:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione /export/zones_patch /ault
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースプ- global0 ※ リソー:	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poc スプールサービスが停止状態 (d	ていることを確認します。) s isable) であることを確認します。	globali 7 r d /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ disable disable	01# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g ed 16:33:3 od 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G *ep pools 6 svc:/system/po	● 使用可能 容量 1.2G 80% <省節> 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 000ls:default 00s/dynamic:def	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones /export/zones_patch
6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソースブー 8. リソースブー	(ントの確認 1# df -h ・ファイルシステムがマウントされ ールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poo スプールサービスが停止状態 (d -ルサービスの起動	ていることを確認します。 つしs isable) であることを確認します。	global 7 7 1 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	D1# df -h リルシステム dsk/cOd0s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd4s0 D1# svcs -a g dd 16:33:33 ad 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G - 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	◆ 使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 000ls:default 00s/dynamic:def	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch /export/zones_patch
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースブ- global0 ※ リソースブ- global0 ※ リソースブ-	<u>(ントの確認</u> 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poo スプールサービスが停止状態 (d -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc:	ていることを確認します。 ols isable) であることを確認します。 /system/pools:default	globald 7 7 1 /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ globald disable disable	D1# df -h ルシステム dsk/cOd0s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:43 ad 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G	使用可能容量 1.2G 80% <省音>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% bools:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione /export/zones_patch fault
6. <u>マウントボ-</u> global0 ※ 全ての global0 ※ サソースブ- global0 ※ リソースブ- global0 ※ シング	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poo スプールサービスが停止状態 (d -ルサービスの起動 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ・	.ていることを確認します。 ols isable)であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため	globald ファイ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/	01# df -h <i>ルシステム</i> dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g ed 16:33:3 ad 16:33:43 bd 16:33:43	サイズ 使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G *ep pools 6 svc:/system/po	● 使用可能 容量 1.2G 80% -<省略> 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 000ls:default 00s/dynamic:def	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch /export/zones_patch
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースブ- global0 ※ リソース 8. リソースブ- global0 ※ シング 9. リソースブ-	(ントの確認 1# df -h マテイルシステムがマウントされ マテイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poo スプールサービスの掲載 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ -ルサービスの状態確認	ていることを確認します。 ols isable) であることを確認します。 /system/pools:default -ルのサービスは起動されないため	global ファイ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ disable disable disable	D1# df -h ルシステム dsk/cOd0s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:43 ad 16:33:43 	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G svc:/system/po svc:/system/po	◆ 使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% bools:default bools/dynamic:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch fault
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースブ- global0 ※ リソースブ- global0 ※ リソースブ- global0 ※ シング 9. リソースブ- global0	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poor スプールサービスの提覧 1# svcs dm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ -ルサービスの機確認 1# svcs -a grep poor ファールサービスの超覧 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor	ていることを確認します。) s isable)であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため	globald ファイ /dev/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	01# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g ed 16:33:43 5があります。	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G ************************************	(使用可能 容量 1.2G 80% <省音>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 000ls:default nols/dynamic:default nols/dynamic:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione /export/zones_patch fault
6. マウントボ- global0 ※ 全ての 7. リソースブ- global0 ※ リソー: 8. リソースブ- global0 ※ シング 9. リソースブ- global0 ※ シング	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの超動 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスが起動状態 (o	ていることを確認します。 つls isable) であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため ols nline) であることを確認します。	globald ファイ /dev/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	01# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g dd 16:33:43 dd 16:33:43 fがあります。 01# svcs -a g dd 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 3.9G svc:/system/po svc:/system/po	• 使用可能 容量 1.2G 80% -<省略> 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 000ls:default 000ls:default 000ls:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch iault
 6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソーニ 8. リソースブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ リソーニ 	(ントの確認 1# df -h マアイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poor スプールサービスの掲載 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ・ -ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ・ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認	ていることを確認します。 つIS isable) であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため ols nline) であることを確認します。	global ファイ /dev/ / /dev/ /dev/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	D1# df -h ルシステム dsk/cOdOsO dsk/cOdOsO dsk/cOd2sO dsk/cOd2sO dsk/cOd2sO dsk/cOd4sO D1# svcs -a g ed 16:33:43 mission D1# svcs -a g ed 16:33:43 D1# svcs -a g ed 16:33:43	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 	使用可能 容量 1.2G 80% <省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% vools:default ools/dynamic:default bools:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_cione /export/zones_patch fault
 6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソー: 8. リソースブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ シング 10. zone のお 	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poor スプールサービスの起動 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースブ・ -ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースブ・ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスが起動状態(o (潮を表示	ていることを確認します。) s isable)であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため) s nline)であることを確認します。	globald ファイ /dev/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	01# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 01# svcs -a g ed 16:33:43 5があります。 01# svcs -a g ed 16:33:43 01# svcs -a g ed 16:33:43 01# svcs -a g	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G *ep pools 5 svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po	(使用可能 容量 1.2G 80% (*省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% bools:default bools/dynamic:default bools/dynamic:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch fault
 6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソーニブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ リソーニブー 	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの起動 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcadm enable svc: ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスのお飯確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスが起動状態 (o (酸を表示 1# zoneadm list -vc	ていることを確認します。 つls isable) であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため ols nline) であることを確認します。	globald ファイ /dev/ / / /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /	D1# df -h ルシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:43 D1# svcs -a g	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G ************************************	(使用可能 容量 1.2G 80% <<省節> 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% bools:default bools/dynamic:default bools/dynamic:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch iault iault efault
 6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソーニ 8. リソースブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ リソーニ 10. zoneの想 global0 ※ 全ての 	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの起動 1# svcadm enable svc: ルユーザモードでは、リソースプ -ルサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスが起動状態 (o (酸を表示 1# zoneadm list -vc zone が停止している (installed)	ていることを確認します。 つls isable) であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため ols nline) であることを確認します。 ed) ことを確認します。	global ファイ /dev/ / /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev	D1# df -h Jルシステム dsk/cOd0s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd3s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd2s0 dsk/cOd4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:43 d 16:33:43 D1# svcs -a g ed 16:33:43 D1# svcs -a g	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 	使用可能 容量 1.2G 80% <*省略>- 3.7G 53% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% 1.9G 67% ools/default ools/dynamic:default ools/dynamic:default eools/dynamic:default	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch iault iault efault BRAND IP native_shared native_shared
 6. マウントボー global0 ※ 全ての 7. リソースブー global0 ※ リソーニ 8. リソースブー global0 ※ シング 9. リソースブー global0 ※ リソーニ 10. zone の投 global0 ※ 全ての 	(ントの確認 1# df -h ファイルシステムがマウントされ ファイルシステムがマウントされ 1# svcs -a grep poor スプールサービスの起動 1# svcadm enable svc: ルサービスの超動 1# svcadm enable svc: ルサービスの超動 1# svcadm enable svc: ルサービスの超動 1# svcadm enable svc: スプールサービスの状態確認 1# svcs -a grep poor スプールサービスが起動状態 (o (酸を表示 1# zoneadm list -vc zone が停止している (installed)	ていることを確認します。 つls isable)であることを確認します。 /system/pools:default ールのサービスは起動されないため ols nline)であることを確認します。 d)ことを確認します。	global ファイ /dev/ / /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev/ /dev	D1# df -h JIシステム dsk/c0d0s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d3s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d2s0 dsk/c0d4s0 D1# svcs -a g ed 16:33:43 D1# svcs -a g ed 16:33:45 D1# svcs -a g ed 16:35 D1# svcs -a	サイズ使用済み 5.9G 4.6G 7.9G 4.1G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G 5.9G 3.9G svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po svc:/system/po d /export/zon d /export/zon	使用可能 容量 1.2G 80% /li 《省略>-	マウント先 / /zone_tar_list /export/zones_clone /export/zones_patch iault iault BRAND IP native shared native shared 2 native shared

構築・運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう				実施日	2011年10月	
構築・運用手順書 (7)従来の方法での 1)バッチの適用 globalC ※ timex	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう かバッチ適用 01# timex patchadd XXXXXX-XX コマンドを使用してパッチの適用時間を計測します。	glo Pai Ad Ch Exc Ins Pai Se Exc Pai S Do Pai Ad Ch Exc Ins	bbalO1# time tching globa ding patches ecking insta ecuting prep stalling patch tch XXXXXX e /var/sadr ecuting post tch package SUNWxxx ne! tching non-t ding patches ecuting prep stalling patch	ex patchado al zone s alled patche patch script h packages. (-XX has be m/patch/X tpatch scrip es installed: global zone zoneO1 s alled patche patch script h packages.	実施日	2011年10月 XX -<省略>- fully installed. /log for details がッチの適用か 行われているこ 確認できます。	適用時と比べて ^K 1環境毎に ことが
2) 適用されてい 1. zoneの状 global0 ※ 全ての 2. global zon global0 3. zoneの起 global0	るバッチの確認 態を表示 D1# zoneadm list -vc D zone が停止している (installed) ことを確認します。 me の再起動 D1# shutdown -y -g0 -i6 動 D1# zoneadm -z zone01 boot	glo usi glo usi sys glo usi usi sys glo usi usi sys sys glo usi usi sys sys glo usi sys sys sys sys sys sys sys sys sys s	al 4:03 er 1:03 s 30 obal01# obal01# zon D NAME 0 global - zone01 - zone02 - zone02 - zone03	3.33 3.83 3.36 3.36 3.36 3.36 3.36 3.36	vc PATH / /export/z /export/z	-<省略>- コマンド実行 約4分3秒です ones/zone01 ones_clone/zone0 ones_patch/zone0	の経過時間 す。 BRAND IP native shared native shared 2 native shared 3 native shared
globalC globalC 4. zone の状 globalC ※ 全ての)1# zoneadm -z zone02 boot)1# zoneadm -z zone03 boot 離を表示)1# zoneadm list -vc > zone が起動している(running)ことを確認します。	glo II	obal01# zon D NAME O global 1 zone01 2 zone02 3 zone03	eadm list - STATUS running running running	vc PATH /export/z /export/z	ones/zone01 ones_clone/zone0 ones_patch/zone0	BRAND IP native shared native shared 2 native shared 3 native shared

構築·運用手順書	Oracle Solaris コンテナを使ってみよう		実施日	2011年10月	
5. global zonu global 00 % XXXXX 6. non-globa global 01 global 01 global 01 global 01	マのパッチを確認 # showrev -p grep XXXXXX-XX X-XXのパッチが適用されていることを確認します。 Izone のパッチを確認 # zlogin zone01 'showrev -p grep XXXXXX-XX' # zlogin zone02 'showrev -p grep XXXXXX-XX'	global01# showrev -p Patch: XXXXX-XX Obs Incompatibles: Package	grep XXXXXX- oletes: YYYYYY s: SUNWxxx 1 'showrey -p oletes: YYYYYY-	XX -YY, ZZZZZZ-Z grep XXXXXX- YY, ZZZZZ-Z	Z, VVVVV-VV Requires: XX' Z, VVVVV-VV Requires:
global01 * XXXXX	# zlogin zone03 'showrev -p grep XXXXX-XX' X-XXのバッチが適用されていることを確認します。	Incompatibles: Package global01# zlogin zone02 Patch: XXXXX-XX Obs Incompatibles: Package global01# zlogin zone02 Patch: XXXXXX-XX Obs Incompatibles: Package	s: SUNWXXX 2 'showrev -p oletes: YYYYYY s: SUNWXXX 3 'showrev -p oletes: YYYYYY s: SUNWXXX	grep XXXXXX- -YY, ZZZZZZ-2 grep XXXXXX- -YY, ZZZZZZ-2	XX' Z, VVVVV-VV Requires: XX' Z, VVVVV-VV Requires:

<pre>by: 1.22-75-Table Discrete: 1) cone of the discrete: 1) cone of the discrete: 2) cone of the discrete: 3) cone of the discrete: 3) cone of the discrete: 3) cone of the discrete: 4) cone of the discrete: 5) cone of the discrete: 6) cone of</pre>		Oracle Solaris コノナノを使うてみよう				実施日	2011年10月		
<pre>#J.2/FJRWOMENE How 09/5/24-0-Mi global012 zoneadm -z zone01 hait # 72/52/b-Ur52 zone d/dgluf CV-Siglid figLL & T. 2) row 02/22/22-0- global012 zoneadm list -vo # zone 07/22/22-0- global012 zoneadm list -vo # zone 07/22/22-0- global012 zoneadm list -vo make shared zone01 bitlid zoneadm list -vo make shared zone01 configured 7.8-22.2-47.4 zone 07428/2800/19 zoneadm list -vo make shared zone01 configured 7.8-22.2-48 global012 zoneadm list -vo make shared zone01 configured 7.8-22.2-48 global012 zoneadm list -vo make shared zone01 configured 7.8-22.2 zone01 delete make shared zone01 configured 7.8-22.2 zone01 delete make shared zone01 zoneadm list -vo make shared zone01 make shared zone01 make shared zone02 zoneadm list -vo make shared zone02 zoneadm list -vo make shared zone02 zoneadm -z zone01 mark linomolete moke shared zone02 zoneadm -z zone01 mark linomolete moke zoneadm -z zone01 mark linomolete mok</pre>					-		-		
<pre>1) zone 072-r2Al-b4) zone 072-r2Al-b4) zone 072-r2Al-b4 zone 0428#28 [clobal021 zoneadm list -vc # zone 0428#28 [clobal021 zoneadm list -vc # zone 0428#28 [clobal021 zoneadm - z zone01 uninstall # x = 7 x = 2 x =</pre>	考]. コンテナ環	境の削除							
# 7/-72/-July 2 conside is 2 consol hait # 7/-72/-July 2 consol is 1 - vc # 1000/02# zonesdm list - vc # zone 0 ELIC V-22-ENE [clobal 02# zonesdm list - vc # zone 0 ELIC V-22-ENE [clobal 02# zonesdm list - vc # zone 0 ELIC V-22-ENE [clobal 02# zonesdm - z zone01 uninstal] # - reno1 uninstal BRAND P [clobal 02# zonesdm list -vc # zone 0 KEB reno1 uninstal # reno1 uninstal <t< td=""><td>(1) zone のアンイン 1) zone の信止</td><td><i>v</i>ストール</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>	(1) zone のアンイン 1) zone の信止	<i>v</i> ストール							
** 7242-XF-AF\$ zone 5488 Prote 24888 2) zone 024888 Prote 24888 2) zone 024888 Prote 24888 3) zone 0252-228-2-0 Prote 258888 2) global01ff zoneadm list -vc Prote 258888 4) zone 0252-228-2-0 Prote 258888 2) global01ff zoneadm list -vc Prote 258888 4) zone 058888 Prote 258888 2) zone 0588888 Prote 258888 2) zone 0588888 Prote 258888 2) zone 058888 Prote 2588888 2) zone 0588888 Prote 25888888 2) zone 0588888 Pr	global(02# zoneadm -z zone01 halt							
<pre>2) zone 0:4k@### global02# zoneadm list -vc # zone #Lctts2c2&##Lct#2. 3) zone 0:72-72-X</pre>	※ アン1	ンストールする zone が起動している場合は停止します。							
global02# zoneadm list -vo # zone #LLTV-62L2##BL##; D NAME - cond01	2)zo <u>ne の状態</u>	確認	globalC	01# zonea	dm list -vc				
** zone ₩µLCTV-SZ-E+₩U_SZ-E - zone01 instabled /export/zones/zone01 native shared 3) zoia σ/2-/2-Zh-A (global028 zonesdm = z zone01 uninstal1 ** - f # 72 > 2 < 6 /th 3 < 2 < model uninstal1	global(02# zoneadm list -vc		AME obal	STATUS	PATH ′		BRAND native sh	IP ared
<pre>3) zone 072-74-ZA-# [global02# zoneadm = z zone01 uninstal1</pre>	× zone	停止していることを確認します。	- zo	one01	installed /	export/zones	/zone01 r	ative sha	ared
<pre>[clobal C22 zoneadm =: z zone01 uninstal1</pre>	3) zo <u>ne のアン・</u>	インストール							
<pre>* * # 775=12-kftf32kft#kftskitkektektfille#. * * * * * * * * * * * * * * * * * * *</pre>	global(02# zoneadm -z <mark>zone01</mark> uninstall							
 4) zone otkäätää onikuvet työsten/poolsidfauonalist -vc poikaitäi suone otkäätää onikuvet työsten/poolsidfauonalist -vc onikutää syntää onikuvet työsten/poolsidfauonalist -vc onikuvet työsten/poolsidfauonalisterittiittii -vc onikuvet työsten/poolsidfauonalisterittiittii -vc onikuvet työsten/poolsidfauonalisterittiittii -vc onikuvet työsten/poolsidfauonalisterittiittii -vc onikuvet työsten/poolsidfauonalisterittiittiittiittiittiittiittiittiittii	ж -F オ	プションを付けると強制的に処理を実行します。							
[s] lobal U22 zoneadm [151 -vc o adobal meming /mining	4) zone の状態	確認		01# zonea	dm list -vc	раты		RRAND	ID
 * 2000 07KBP Computed CASC-224BBL#Y, - zone01 conflued /export/zone3/zone01 native shared 2) none 05KBPB07BE 2 [clobal027 zoneofg = z zone01 delete * WReABBZ># Status 2) zone 05KB2BB2 2 [clobal027 zoneofg = z zone01 delete * WReABBZ># Status 2 zone 05KB2BB2 2 zone 05KB2B2 2 zone	global	J2# zoneadm list -vc		obal	running	/		native	shared
 2) zote の構成情報の解除 2) zote の構成情報の解除 global02# zoneofg - z zone01 delete * 解除の確認が表示されるので、y を押して解除します。 global02# zoneofg is - vc	∞ zone	の状態か configured であることを確認します。	- Z0	one01	configured	/export/zone	es/zone01	native s	hared
global02# zonecfg -z zone01 delete * MRomEXF&rdt∨(, y EMUCTMEUL#). 2 zone dyzd#am global02# zoneadm list -vc b NAME Stobal02# zoneadm -z zone01 mark incomplete * zone # Ltxmc/mark y up-z7-wf@zonamk 3) Up-z7-wf@zonamk 1) Up-z7-wf@zonamk global02# pooladm -x * yup-z7-wf@zonamk 2 lobal02# pooladm -x * Up-z7-wf@zonamk 2 lobal02# pooladm -x * yup-z7-wf@zong#L global02# pooladm -x * yup-z7-wf@zong#L global02# socal disable soc:/system/pools:default global02# socadm disable soc:/system/pools/dynamic:default global02# socadm disable soc:/system/pools/dynamic:default sublou2# socadm alsable soc:/system/pools.default yup-z7-wby-tzx/##Ltouszte##Rule# * up-z7-wby-tzx/##Ltouszte##Rule#	2)zone の構成情報 1)zone の構成	報の削除 情報の削除							
** 削除の確認が表示されるので、y を押して削除します。 2) zone の状況を確認 <pre>global02# zoneadm list -vc</pre> D NAME STATUS PATH BRAND P native shared ** 削除されたことを確認します。 @dobal02# zoneadm list -vc global02# zoneadm list -vc D NAME STATUS PATH BRAND P native shared # Path # Niketれたことを確認します。 # O global # Path BRAND P # Path BRAND P native shared # Blobal02# zoneadm -z zone01 mark incomplete * zone # Ltytem condition # J0 Z	global(02# zonecfg -z <mark>zone01</mark> delete							
 2) zone の状況を確認 [clobal02# zoneadm list -vc * 削除されたごと登録記します. BRAND IP native shared ●考 jzone を incomplete 状態にするコマンド [global02# zoneadm -z zone01 mark incomplete * zone 停止状態で実行してくたさい。 (3) リソースブール構成の削除 1) リソースブール構成の削除 1) リソースブール構成の削除 1) リソースブール構成の削除 (3) リソースブール構成の削除 (3) リソースブール構成の削除 (3) リソースブール構成の削除 (3) リソースブール体Loold(#Lative System/pools:default [global02# sveadm disable svc:/system/pools:default [global02# sveadm disable svc:/system/pools/dynamic:default	※ 削除(の確認が表示されるので、y を押して削除します。							
global02# zoneadm list -vo UDANME STATUS* CHARM BILST* CHARM	2)zo <u>ne の状況</u>	を確認	global	01# zonoo	dm list _vo				
** 削除されたことを確認します。 0 global running / native shared ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	global(02# zoneadm list -vc			STATUS	PATH		BRAND	IP
参考)zone & incomplete 状態にするコマンド global02# zoneadm -z zone01 mark incomplete ** zone 停止状態で実行してくたさい。 (3) リソースブール構成の初點化 global02# pooladm -x * リソースブール構成の初點化 global02# pooladm max (3) リソースブール体点の回動能 (3) リソースブール体点の回動能 (3) リソースブール体点の回動能 (3) リソースブール体点の回動能 (3) リソースブールやくどなの作止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default (3) リソースブールやく生気の作止 global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールやく生気が停止していることを確認します。	※ 削除さ	されたことを確認します。	O glo	obal	running	/		native	shared
参考 zone & incomplete 状態にするコマンド global 02# zoneadm -z zone01 mark incomplete ※ zone 停止状態で実行してください。 (3) リソースブール構成の初時化 global 02# pooladm -x ※ リソースブールは、pooldefault のみの状態になります。 (2) リソースブール・大スの停止 global 02# svcadm disable svc:/system/pools:default (3) リソースブールの状態確認 global 02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールの状態確認 global 02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default									
Image: Structure 2 201801 mark Incomplete ※ zone 停止状態で実行してくたさい。 (3) リソースブール構成の初期化 global02# pooladm ~X ※ リソースブールは、pool_default のみの状態になります。 (2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールの状態確認 global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールの状態確認 global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールの大能確認 global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default									
 (3) リソースブール構成の初期化 global02# pooladm -x ※ リソースブールは、pooldefault のみの状態になります。 (2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default slobal02# svcadm disable svca	参考)zon	e を incomplete 状態にするコマンド							
 (3) リソースブール構成の削除 1) リソースブール構成の削除	参考)zon global(※ zone	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z <mark>zoneO1</mark> mark incomplete 信止状態で実行してください							
 (3) リソースブール構成の初期化 global02# pooladm -x ※ リソースブールは、pool_default のみの状態になります。 2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default 3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが停止していることを確認します。 	参考)zon global(※ zone	e <u>を incomplete 状態にするコマンド</u> D2# zoneadm -z <mark>zoneO1</mark> mark incomplete 停止状態で実行してください。							
 リソースブール構成の初期化 global02# pooladm -x	参考)zon global(※ zone	e <u>を incomplete 状態にするコマンド</u> D2# zoneadm -z <mark>zoneO1</mark> mark incomplete 停止状態で実行してください。							
 リソースブール構成の初期化 global02# pooladm -x ※ リソースブールは、pool_default のみの状態になります。 リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが停止していることを確認します。 	参考)zon global(※ zone (3) リソースブール様	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 尊成の削除							
global02# pooladm -x * リソースブールは, pool_default のみの状態になります。 2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default 3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools * リソースブールサービスが停止していることを確認します。	参考)zon global(※ zone (3) リソースプール様	e <u>を incomplete 状態にするコマンド</u> D2# zoneadm -z <mark>zoneO1</mark> mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除							
 ※ サノースノールは、boolderadit のみの次級になります。 (2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default (3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが停止していることを確認します。 	参考)zon global(※ zone (3) リソースプール様 1) リソースプール様	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 U構成の初期化							
2) リソースブールサービスの停止 global02# svcadm disable svc:/system/pools:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default 3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが停止していることを確認します。	参考)zon global(※ zone (3) リソースプール構 1) リソースプール global(e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 U構成の初期化 D2# pooladm -x ZZ - Ut- pooladm -x							
global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default 3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースブールサービスが停止していることを確認します。	参考)zon global(※ zone (3) リソースプール様 1) リソ <u>ースプール</u> global(※ リソー	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 U構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。							
global02# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:default 3) リソースプールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースプールサービスが停止していることを確認します。	 参考)zon global(※ zone (3) リソースブール様 1) リソースブール様 1) リソースブール様 2) リソースブーノ global(※ リソー 2) リソースブーノ 	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# sycadm disable syci/system/poolsidefault							
3) リソースブールの状態確認 global02# svcs -a grep pools ※ リソースプールサービスが停止していることを確認します。	参考)zon global(※ zone (3) リソースプール構 1) リソースプール global(※ リソー 2) リソースプーノ global(e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 U構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default							
global02# svcs -a grep pools ※ リソースプールサービスが停止していることを確認します。	 参考)zor global(※ zone (3) リソースブール相 1) リソースブール相 1) リソースブール相 2) リソースブール global(※ リソー 2) リソースブール global(e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d	lefault						
※ リソースプールサービスが停止していることを確認します。	 参考)zor global(第 zone (3) リソースブール相 1) リソースブール相 1) リソースブール相 2) リソースブーム 2) リソースブーム 3) リソースブーム 	te を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d レの状態確認	lefault						
	 参考)zor global(※ zone リソースブール構 リソースブール構 リソースブール global(※ リソー リソースブーノ global(3) リソースブーノ 	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d D2# svcs -a grep pools	lefault						
	 参考)zor global(※ zone (3) リソースブール構 1) リソースブール構 1) リソースブール構 2) リソースブーリ global(3) リソースブーリ global(※ リソー 	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x マスプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d LO2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d LO2# svcs -a grep pools マプールサービスが停止していることを確認します。	efault						
	 参考)zor global(※ zone (3) リソースブール様 1) リソースブール様 1) リソースブール様 2) リソースブーム global(global(3) リソースブーム global(※ リソー 	te を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zoneO1 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の削除 U構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d LOX推確認 D2# svcs -a grep pools スプールサービスが停止していることを確認します。	lefault						
	 参考)zor global(※ zone (3) リソースブール構 1) リソースブール構 1) リソースブール構 2) リソースブール global(家 リソー 3) リソースブーノ global(家 リソー 	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x スプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d D2# svcs -a grep pools スプールサービスが停止していることを確認します。	efault						
	 参考)zor global(※ zone (3) リソースブール構 1) リソースブール構 1) リソースブール global(※ リソー 2) リソースブーリ global(3) リソースブーリ 第 リソー 	e を incomplete 状態にするコマンド D2# zoneadm -z zone01 mark incomplete 停止状態で実行してください。 構成の初期化 D2# pooladm -x マスプールは、pool_default のみの状態になります。 レサービスの停止 D2# svcadm disable svc:/system/pools:default D2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d LO2# svcadm disable svc:/system/pools/dynamic:d LO2# svcs -a grep pools マスプールサービスが停止していることを確認します。	efault						

